



DLP Cinema[®] プロジェクター

形名 **NC-624**

取扱説明書

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

● ご使用前に「安全にお使いいただくために」（3 ページ）を必ずお読みください。

はじめに

このたびは、DLP Cinema® プロジェクター NC-624（以降、「NC-624 本体」を「本機」または「プロジェクター」と呼びます）をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本機を安全に正しく使用していただくため、ご使用前に、この取扱説明書（本書）をよくお読みください。取扱説明書は、いつでも見られる所に大切に保存してください。万一ご使用中にわからないことや故障ではないかと思ったときにお読みください。

本書では製品名称を次のように記載しています。製品により内容が異なる部分については、本文中に製品名を記載しています。

オプションボード（別売）

- プロジェクターに接続する信号ケーブルは、シールドタイプを使用してください。それ以外のタイプのケーブルを使用した場合、受信障害の原因となることがあります。

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI - A

警告：本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

- DLP (Digital Light Processing)、DLP Cinema、DLP Cinema ロゴは、米国 Texas Instruments 社の商標です。
- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他取扱説明書に記載のメーカー名および商品名は、各社の登録商標または商標です。
- 本書に載せているイラストや表示画面は、実際と多少異なる場合があります。

本製品に含まれる GPL/LGPL 等適用ソフトウェアのライセンスについて

本製品には GNU General Public License (GPL)、GNU Lesser General Public License (LGPL) その他に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。当該ソフトウェアに関する詳細は、当社ホームページに掲載の「about GPL&LGPL」フォルダ内の readme.pdf をご参照ください。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。
- (4) 本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では（3）項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

2026 年 2 月 初版

シャープ株式会社の許可なく複製・改変などはできません。

本機を安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずお読みください

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の財産に損害をあたえたりすることがあります。

絵表示の例



△ 記号は注意（警告を含む）をうながすことを表しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘ 記号はしてはいけないことを表しています。
図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号はしなければならないことを表しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。



警告

設置について

- ・RG3 製品である本機は、業務用途であり安全が担保される設置が必要です。そのため設置やレンズユニットの取り付けおよび取り外しは、専門のサービスマンが行うことが義務付けられていますので、必ず販売店へご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。視力障害などの原因になります。

レーザー光線の安全に関する警告



クラス 1 レーザー製品



注意 - リスクグループ 3 製品

- ・本製品は、レーザー製品の安全基準 JIS C 6802:2018、IEC 60825-1:2014 においてクラス 1 に分類されています。
- ・本製品は、IEC/EN 62471-5:2015 においてリスクグループ 3 に分類されています。
- ・本製品は劇場などにおける特定者だけが操作可能です。お客様は本製品を操作しないでください。
- ・本書に記載している以外の制御部の使用、または調整もしくは手順の実施は、危険なレーザー放射の露光に結びつくことがあります。
- ・プロジェクターのレンズをのぞかないでください。動作中は強い光が投写されていますので、目を痛める原因となります。特にお子様にはご注意ください。
- ・目へのビームの直接被曝を禁止します。
RG3 IEC/EN 62471-5:2015
機器管理者 (オペレーター) は Hazard distance 内への人の立ち入りを防止すること。
または、観客の目への被曝を防ぐよう、Hazard distance からの距離を確保する高さの本機を設置すること。
- ・プロジェクター本体に次ののぞき込み禁止を表す図記号を表示しています。



- ・RG3 製品である本機は、業務用途であり安全が担保される設置が必要です。そのため設置やレンズユニットの取り付けおよび取り外しは、専門のサービスマンが行うことが義務付けられていますので、必ず販売店へご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。視力障害などの原因になります。
- ・レンズから出た光を光学機器 (ルーペや反射鏡など) を使ったのぞかないでください。視力障害の原因となります。
- ・プロジェクターの電源を入れる際は、レンズの方を向いている人がレーザーの出射光路上にいないことを確認してください。

設置および輸送について



- ・プロジェクターの設置および輸送については、販売店にご相談ください。
お客様による設置および輸送は絶対におやめください。けがの原因となります。
- ・この機器は子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。

電源コードの取り付けについて



- ・本機に電源コードは添付していません。使用する国の規格・電源電圧に適合した電源コードを使用してください。電源コードの選定および手配は、販売店にご依頼ください。
- ・プロジェクターの電源コードの取り付けについては、「2-2. 電源コードを接続する」(25 ページ)をご覧ください。

決められた電圧以外で使用しない



- ・以下に示す電源電圧以外で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
 - ・AC200V ~ 240V 単相 50/60Hz

電源コードの取り扱いには大切に



- ・電源コードは大切に取扱いってください。コードが破損すると、火災・感電の原因となります。
 - ・コードの上に重い物をのせない。
 - ・コードをプロジェクターの下敷きにしない。
 - ・コードの上を敷物などで覆わない。
 - ・コードを傷つけない、加工しない。
 - ・コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
 - ・コードを加熱しない。

電源コードが傷んだら (芯線の露出・断線など) 販売店に交換をご依頼ください。



警告

故障したときは電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜く

- ・ 煙が出ている、変なにおいや音がする場合、キャビネットを破損した場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電・視力障害の原因となります。販売店へ修理をご依頼ください。

水場や水にぬれるような所には置かない



水ぬれ禁止

- ・ 次のような水にぬれるようなおそれがある所では使用しないでください。またプロジェクターの上に水の入った容器を置かないでください。火災・感電の原因となります。
- ・ 雨天や降雪中、海岸や水辺で使用しない。
- ・ 風呂やシャワー室で使用しない。
- ・ プロジェクターの上に花瓶、植木鉢を置かない。
- ・ プロジェクターの上にコップ、化粧品、薬品を置かない。

万一内部に水などが入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

次のような所では使用しない



- ・ 次のような所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- ・ ぐらついた台の上、傾いた所など、不安定な場所
- ・ 風通しや換気の悪い所
- ・ 直射日光のあたる所や熱器具のそば
- ・ 振動の多い所
- ・ 湿気、ほこり、油煙、湯気の当たる所
- ・ 腐食性ガス（二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する所
- ・ 屋外
- ・ 温度、湿度が急激に変化し結露が起きやすい所
結露が起きたときには、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

内部に物を入れない



異物挿入禁止

- ・ プロジェクターの通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
- ・ 万一異物が内部に水などが入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

キャビネットは絶対にあけない



分解禁止

- ・ プロジェクターのキャビネットを外したり、あけたりしないでください。また改造しないでください。火災・感電・レーザー光がもれることによる視力障害や火傷の原因となります。
- ・ 内部の点検・調整・修理は販売店にご相談ください。

雷が鳴りだしたら、本体に触れない



- ・ 雷が鳴りだしたら、本体に触れないでください。感電の原因となります。

動作中にレンズをふさがない



- ・ 動作中にレンズにレンズキャップをつけないでください。レンズキャップが高温になり、変形したり、溶けたりする原因となります。
- ・ 動作中にレンズの前に物を置いて光をさえぎらないでください。物が高温になり、破損や火災の原因となります。
- ・ プロジェクター本体に次の図記号を表示しています。





警告

レンズの取り外し／取り付け



- ・ レンズの取り外し、取り付けを行う際は、プロジェクターの電源を切ってください。視力障害の原因となります。
レンズの取り付けおよび交換については販売店にご相談ください。

天吊りの設置について



- ・ 天吊りなどの特別な工事が必要な設置については販売店にご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。



注意

機器のアースは確実に接続してください



- ・ 機器の安全確保のため、機器のアースは確実に接続してご使用ください。

通風孔をふさがない



- ・ プロジェクターの通風孔をふさがないでください。また、プロジェクターの下に紙や布などの柔らかい物を置かないでください。火災の原因となることがあります。
- ・ プロジェクターを設置する場所は周囲から適当な空間をあけてください。目安として壁から最低30cm以上、特に背面の排気口前は50cm以上の空間をあけてください。

ぬれた手で本体に触れない



ぬれた手は危険

- ・ ぬれた手でプロジェクターおよび電源コードに触れないでください。感電の原因となることがあります。

移動するときは電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜く

- ・ 移動させる場合は、本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、機器間の接続ケーブルおよびレンズユニットを外したことを確認のうえ、行ってください。

移動するときは本体の底面を持つ



- ・ プロジェクターを移動するときは4人以上で行ってください。
- ・ 必ず本体底面の手掛けを持って運んでください。その際、レンズユニットはプロジェクター本体から取り外してください。レンズを持つと、レンズが破損したり本体が落下したりしてけがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜く

- ・ 長期間、ご使用にならないときは安全のため必ず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜く

- ・ お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

投写中および投写終了直後は排気口をさわらない



- ・ 投写中および投写終了直後は、排気口付近を触らないでください。排気口付近と本体後方が高温になるため、やけどの原因となることがあります。



注意

点検・工事について



内部の掃除を販売店で

- ・ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。プロジェクターの内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

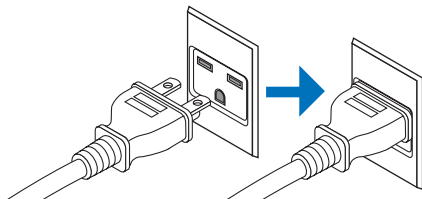
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部の掃除費用につきましては販売店などにご相談ください。

過電圧が加わるおそれのあるネットワークには接続しない



- ・ 本機の LAN ポートは、過電圧が加わるおそれのないネットワークに接続してください。LAN ポートに過電圧が加わると、感電の原因となることがあります。

アース端子を接続する



- ・ 本機は電源コードのアース端子をアースに接続することを前提に設計されている 3 芯プラグ機器です。機器の安全確保のため、電源コードは、3 芯コンセントに直接接続し、機器のアースを確実に接続してご使用ください。アースを接続しないと感電するおそれがあります。また、接続の際に、2 芯プラグへの変換アダプターは使用しないでください。詳細は 25 ページをご覧ください。

電源コードのコネクターは電源コードストッパーで固定する



- ・ 本機の AC IN 端子に電源コードを接続する際は、コネクターを奥までしっかり挿し込み、必ず電源

コードストッパーを使って固定してください。電源コードの接続がゆるむと、火災・感電の原因となるおそれがあります。

電源コードはコンセントに接続する



- ・ プロジェクターの電源はコンセントを使用してください。直接電灯線に接続することは危険ですので行わないでください。

レンズシフト動作中は指の挟み込みに注意



- ・ レンズシフト動作中は、レンズユニット取り付け部の周囲に手を近づけないでください。レンズカバーとレンズユニットの隙間に指が挟まれるおそれがあります。

レンズシフト調整は後方または横から行う



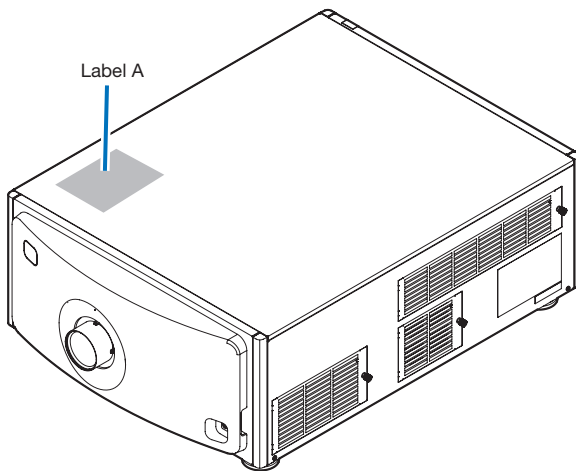
- ・ レンズシフトの調整はプロジェクターの後方または横から行ってください。前面で調整すると強い光が目に入り、目を痛める原因となります。

清掃に可燃性ガスのスプレーを使用しない



- ・ レンズやキャビネットなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因となります。

本機の警告ラベル



光源のレーザーモジュールについて

- ・本製品にはレーザーモジュールが内蔵されています。本書に記載した以外の手順による制御及び調整は、危険なレーザー放射の露光に結びつくことがあります。
- ・本製品は、レーザー製品の安全基準 JIS C 6802:2018、IEC 60825-1:2014 のクラス 1 に分類されています。
- ・本製品は、IEC/EN 62471-5:2015 のリスクグループ 3 に分類されています。

【内蔵されたレーザーの概要】

- ・波長：青 449-471nm
- ・最大出力：青 385W

レーザー製品の説明ラベルは、プロジェクター本体の天面に貼付されています。

クラス 1 レーザー製品

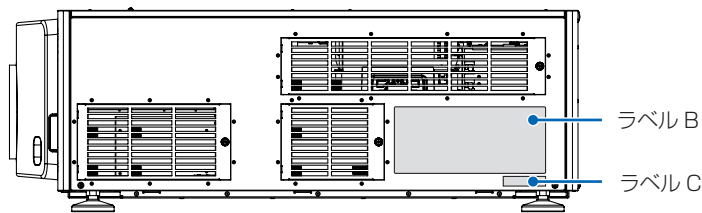


注意 - リスクグループ 3 製品

ラベル A: Laser Explanatory/Lamp Warning Label
(レーザー説明 / ランプ警告ラベル)



本機を安全にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください



ラベル B

SHARP NC-624
PROJECTOR / PROJECTEUR / PROJEKTOR / ПРОЕКТОР / PROYECTOR

MODEL: TEGANGAN: BO/BT: 額定電圧: 定格電圧: NC-624
VOLTS: 200-240V ~
AMPERES: AMPER: 額定電流: 定格電流: 7.4A
FREQUENCY: FREKUENSI: ЧАСТОТА: 額定周波数: 50/60Hz

CAUTION: TO PREVENT ELECTRIC SHOCK, DO NOT OPEN TOP COVER. NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE.
ATTENTION: AFIN DE PREVENIR UN CHOC ELECTRIQUE, NE PAS ENLEVER LE COUVERCLE.
S'ADRESSER A UN REPARATEUR COMPETENT.
ACHTUNG: ZUR VERMEIDUNG EINES ELEKTRISCHEN SCHLAGES, OFFNEN SIE DAS GEHÄUSE NICHT SELBST.
IN DIESEM GERÄT SIND KEINE TEILE ENTHALTEN, DIE VOM NUTZER GEWARTET WERDEN KÖNNEN.
ZUR TRENNUNG VOM NETZ IST DER NETZSTECKER AUS DER STECKDOSE ZU ZIEHEN!
ВНИМАНИЕ: ВО ИЗБЕЖАНИЕ УДАРА ЭЛЕКТРИЧЕСКИМ ТОКОМ НЕ ОТКРЫВАЙТЕ ВЕРХНЮЮ КРЫШКУ.
ВНУТРИ НЕТ ДЕТАЛЕЙ, ОБСЛУЖИВАЕМЫХ ПОЛЬЗОВАТЕЛЕМ.
PRECAUCIÓN: PARA PREVENIR DESCARGA ELÉCTRICA, NO quite el RECINTO.
NINGUNAS PIEZAS DEL USUARIO SERVICABLES ADENTRO.

注意: 請勿打開頂蓋・小心高壓電擊・機內並無用戶配件。
警告: 為避免電磁干擾・本產品不應安裝或用於住宅環境。
주의: 전기충격 방지를 위해 캐비닛을 열지 마십시오.
내부에는 사용자를 위한 서비스가 등 부품이 들어있지 않습니다.
تنبيه: تجنب فتح الغطاء العلوي للجهاز متعا للتعرض لصدمة كهربائية.
لا يحتوي الجهاز على أجزاء داخلية قابلة للصيانة من قبل المستخدم.

제조/국가: 코이트로닉 프로텍션 (문산) 코퍼레이션 / 중국
생산일: 일관된 호외 표기
연동 서비스 센터 전화 번호: 080-022-1155 (호성ITX주식회사)
*본 라벨과 전화번호는 국내 규정 내에서 적절한 목적의
로만 사용되어야 합니다.
Manufacturer: Coretronix Corporation
THIS CABINET IS CONSTRUCTED OF METAL (AND PLASTIC) PARTS

MADE IN CHINA
FABRIQUE EN CHINE
HERGESTELLT IN CHINA
PRODUCE IN CHINA
CJIAHANG KIPAL
FABRICADO EN CHINA
生産国: 中国
중국에서 만든

警告 高压注意
서비스맨以外の方は外装
パネルをあげないでください。
内部には高電圧部分が数多く
あり、万一さわると危険です。

使用上の注意
イ. 通風孔をふさがないでください。
内部温度の上昇を招き故障の原因になります。
ロ. 温度の高い場所や湿気の多い場所での使用はさけてください。
この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると
電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な
対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

SERIAL NO. _____

Brand Owner
SHARP CORPORATION
1 Takumi-cho, Sakai-ku, Sakai-City,
Osaka 590-8522, Japan

Contact address for EU
Sharp Display Solutions Europe GmbH
Landshuter Allee 12-14, 80637 Munich, Germany
https://sharpdisplays.eu

Contact address for UK
Sharp Electronics (Europe) Limited
4 Furze Ground Way, Stockley Park, Uxbridge,
Middlesex, UB11 1EZ, United Kingdom

>PET<

ラベル C

NC-xxxx A xxxxxxxx
MANUFACTURED MMMM YYYY.Wxx

レーザー光の放射範囲 / 侵入禁止範囲 (HD:Hazard distance)

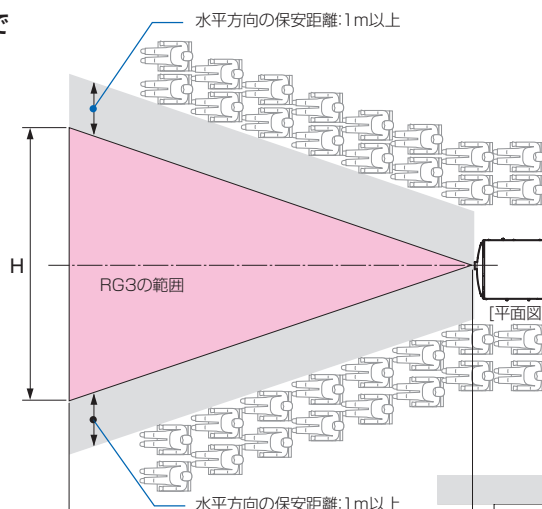
- ・ 下図の範囲は、IEC/EN 62471-5:2015 にてリスクグループ 3 (RG3) に分類された投写光の範囲を表しています。
- ・ 設置時には下記事項を遵守してください。
 人の目が RG3 の領域内に侵入しないようにバリアを設けること。
 バリアは RG3 となる領域から水平距離 1m 以上の保安距離をとること。
 ただし、頭上に設置する場合は、床面と RG3 の領域の距離を 2m 以上確保すること。
 RG3 領域内での観客の目への被曝を防ぐ高さで本機を設置すること。
 機器管理者（オペレーター）は RG3 領域内への観客の立ち入りを防止すること。

NC-624 (IEC/EN 62471-5 First edition 2015)

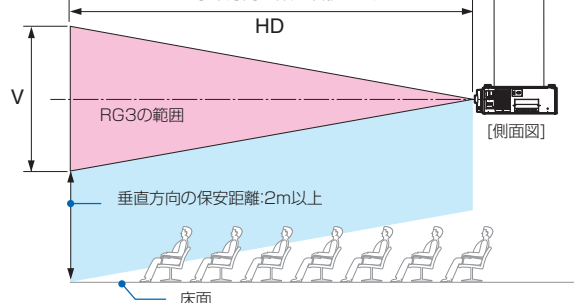
レンズ		RG3 HD (m)	画面サイズ (m)	
			H	V
NC-12ZSA1	Wide	0.6	0.49	0.26
NP-9LS12ZM1	Tele	0.8	0.49	0.26
NC-13ZSA1	Wide	0.6	0.50	0.26
NP-9LS13ZM1	Tele	1.0	0.50	0.26
NC-16ZSA1	Wide	0.8	0.50	0.26
NP-9LS16ZM1	Tele	1.3	0.50	0.26
NC-20ZSA1	Wide	1.0	0.43	0.23
NP-9LS20ZM1	Tele	1.9	0.46	0.24

本機を安全にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください

床置きまたはデスクトップ設置で
投写する場合



天吊り設置で投写する場合



※レンズシフトをお使いの場合は、画面が移動します。シフト量も考慮してください。

⚠ 注意

安全確保のため、以下の事項を遵守してください。

設置について

- ・ RG3 製品である本機は、業務用途であり安全が担保される設置が必要です。そのため設置やレンズユニットの取り付けおよび取り外しは、専門のサービスマンが行うことが義務付けられていますので、必ず販売店へご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。視力障害などの原因になります。
- ・ 設置場所のレイアウト設計の際には設置・調整説明書に記載された安全への処置の実施を遵守すること。
- ・ 危険回避のため、緊急時に電源プラグをコンセントから抜けるように、コンセントは手の届く範囲に設置すること。もしくは、プロジェクターを停止できるようなデバイス（ブレーカー）を設けること。
- ・ 前項の RG3 の領域へ人の目が入らないような安全処置を行うこと。
- ・ 設置する場所に適したレンズを選定し、レンズごとに設定された安全のための領域を確保する処置を適切に行うこと。プロジェクターを動作させて光の調整作業などを行う際は、必ず適切な処置が完了してから行うこと。
- ・ 設置後にレンズごとに設定された安全確保の処置が適切に施行されているか妥当性の確認を行うこと。妥当性の確認は定期的実施し、確認結果の記録を保管すること。
- ・ 機器管理者（オペレーター）に対して、安全に関する教育を機器使用前に必ず実施すること。

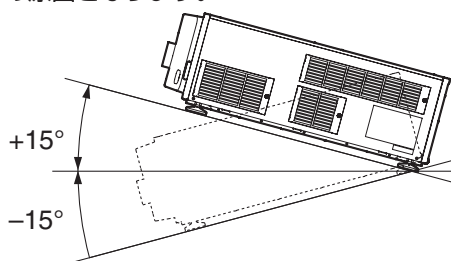
ご使用にあたって

- ・ 機器管理者（オペレーター）に対して、動作前点検（投写光に対する安全の確認を含む）を必ず実施するように指示すること。
 - ・ 機器管理者（オペレーター）に対して、プロジェクター動作時には必ず機器管理者（オペレーター）が緊急時の対応が出来るような状態で管理するように指示すること。
 - ・ 機器管理者（オペレーター）に対して、設置・調整説明書、取扱説明書、点検記録をいつでも参照できるところへ保存・保管しておくよう指示すること。
- 各国、各地域の規制を遵守した状態であることを明確にしておくように指示すること。

お願い

■性能確保のため、次の点にご留意ください。

- ・ 次のような場所に設置したり、保管したりしないでください。
- ・ 振動や衝撃が加わる場所
動力源などの振動が伝わる所に設置したり、車両、船舶などに搭載すると、プロジェクターに振動や衝撃が加わって内部の部品が傷み、故障の原因となります。
- ・ 高圧電線や動力源の近く
妨害を受ける場合があります。
- ・ 強い磁界が発生する場所
故障の原因となります。
- ・ 屋外および湿気やほこりの多い場所
油煙や湯気の当たるような場所
腐食性のガスが発生する場所
キャビネットに油や薬品、水分などが付着した場合、キャビネットの変形またはひび割れ、金属部分の腐食、および故障の原因となります。
- ・ 本機を長時間連続して使用される場合、たばこの煙・ほこりの多い場所で使用する場合は、あらかじめ当社にご相談ください。
- ・ 本機を前後方向に傾けて使用する場合は、水平方向(+15° ~ -15°)の範囲で使用してください。範囲を超えて傾けたり、左右に傾けたりすると故障の原因となります。



床置きで設置する場合



- ・ 本機を高所（気圧の低い所）で使用すると、内部部品の交換時期が早まる場合があります。
- ・ 20A を超えるブレーカが付いているコンセントに本機を接続することをおすすめします。
- ・ スクリーンへの外光対策をしてください。
スクリーンには、照明など本機以外からの光が入らないようにしてください。

外光が入らないほど、ハイコントラストで美しい映像が見られます。

- ・ スクリーンについて
ご使用のスクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。
スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いにご注意ください。
- ・ プロジェクターの移動について
4人以上で、必ず本体底面の手掛けを持って運んでください。その際、レンズユニットはプロジェクター本体から取り外してください。
また、プロジェクターに強い衝撃を与えないでください。
- ・ 投写レンズ面は素手でさわらないでください。
投写レンズ面に指紋や汚れが付くと、拡大されてスクリーンに映りますので、レンズ面には手をふれないでください。
また、本機を使用されないときは、レンズに添付のレンズキャップをかぶせておいてください。
- ・ 廃棄について
本機を廃棄する際は、お買いあげの販売店、または自治体にお問い合わせください。

■ AC 電源を遮断する際の注意

以下のような場合は本体の AC 電源の供給を遮断しないでください。

機器が故障するおそれがあります。

- ・ 投写中
- ・ Power On 中
- ・ Power Off したあとのクーリング中（ファンの回転中は < STATUS > インジケータがオレンジ色で点滅して、液晶画面に「Cooling...」と表示されます）。
- ・ IMB 使用時：90 秒
- ・ IMB 動作中（プロジェクター本体がスタンバイ状態になっていないとき）

■有線 LAN に関するご注意

- ・ 本機の有線 LAN 端子は公衆回線（電気通信事業者から貸与またはレンタルされたルーターを含む）に直接接続することを意図して設計されていません。そのため有線 LAN 端子を公衆回線に直接接続することは電気通信事業法で禁止されています。

目次

はじめに	2
本機を安全にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください ...	3
1. 添付品や名称を確認する	15
1-1. 特長	15
1-2. 添付品の確認	17
1-3. 各部の名称	18
2. 設置と接続	24
2-1. 設置と接続の流れ	24
2-2. 電源コードを接続する	25
2-3. 映像入力端子と接続する	29
2-4. 各種コントロール端子と接続する	29
3. 映像を投写する（基本操作）	30
3-1. 映像を投写する流れ	30
3-2. 本機の電源を入れる	31
3-3. 入力信号のタイトルを選択する	34
3-4. 投写画面の位置と大きさを調整する	35
3-5. 誤操作を防止する	39
3-6. 本機の電源を入れた状態で光源を点灯 / 消灯する	40
3-7. 本機の電源を切る	41
4. 調整メニュー	42
4-1. 調整メニューの基本操作	42
4-2. 調整メニュー一覧	47
4-3. Title Select	48
4-4. Configuration	48
4-5. Title Setup	50
4-6. Information	50
5. 本体のお手入れ	54
5-1. キャビネットの清掃	54
5-2. レンズの清掃	55
5-3. エアフィルターの清掃	55
6. 付 録	59
6-1. 故障かな？と思ったら	59
6-2. インジケータ表示一覧	60
6-3. HTTP を使用したブラウザによる操作	63
6-4. ログファイルの書き出し (Save Information)	64
6-5. 外観図	68
6-6. 仕様	69
6-7. 電源コード	70
6-8. 端子のピン配列と機能	72
6-9. 関連商品一覧	79
6-10. 保証と修理サービス（必ずお読みください）	80

1.

添付品や名称を確認する

1-1. 特長

● DLP Cinema® プロジェクター

当社が培ってきた先端映像技術を駆使し、本機は米国業界団体 Digital Cinema Initiatives (DCI) の定める厳格な上映規格に適合しています。また、3D 投写やハイフレームレート (HFR) にも対応しています。

● 長寿命レーザ光源を採用

信頼性、冗長性に優れた新開発のレーザ光源を採用。レーザ光源は長寿命のため、光源の交換や調整などのメンテナンスが長期間不要になり、ローコストオペレーションを実現します。また、光源が突然消灯して黒画面になる危険性を低減します。

● 設置面積の省スペース化と設置自由度の向上を実現

0.69" DLP Cinema チップの採用や、プロジェクター本体と光源を一体化することにより、設置面積の省スペース化を実現するとともに、外部排気ダクトへの接続が不要なことなど、設置方法の自由度を向上させています。様々な設置方法に対応するため、本機には別売のオプションレンズが多種用意されています（本機の工場出荷時はレンズが装着されていません）。

● 使い勝手を重視した機能を搭載

- (1) ワンタッチで調整した設定を使用できるレンズメモリ機能・ライトメモリ機能を搭載

入力信号ごとにレンズのズーム位置やシフト位置を保存できるレンズメモリ機能と、明るさの設定を保存できるライトメモリ機能を搭載しています。画面サイズや明るさの設定が異なる入力信号を複数上映する場合でも信号を選択するだけで、あらかじめ調整した設定を使用して投写できます（レンズメモリ機能対応レンズについては、「6-9. 関連商品一覧」(P.79 ページ) をご覧ください)。

- (2) 光源の明るさや色を一定にする自動調整機能を搭載

光源の使用時間が経過するとともに起こる明るさ低下や色変化を最小限にすることができます（明るさの変動を抑えられる時間は、明るさの設定により異なります）。

1. 添付品や名称を確認する

(3) よく使うタイトルをプリセットボタンに登録可能

登録したタイトル（入力信号）を簡単に選択できるように 8 個のプリセットボタンを搭載しました。本機は最大 100 件のタイトルを登録できます。100 件のうち任意の 16 タイトルをプリセットボタンに割り当てることができます。

(4) コンピューターから、ネットワーク経由でプロジェクターの操作や設定が可能

当社が配布しているソフトウェア “Digital Cinema Communicator (DCC) V2” を使用して、コンピューターからネットワーク経由でプロジェクターの操作や設定をすることができます。

● 高防塵性

R、G、B の各 DMD チップと分光／集光プリズムに防塵シールドを採用しています。空気中のチリやホコリ、イベント会場で使用するスモークの油粒子が DMD のフェイス面に付着するトラブルを防ぎます。

● メタルフィルター採用によるランニングコスト削減

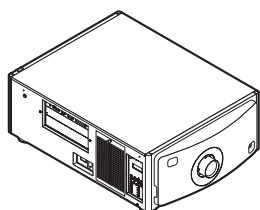
金属製フィルターの採用により、定期的な清掃を行うことで、フィルターを交換することなく繰り返し使用できます。それによりランニングコストを削減するとともに、使用済みフィルターを廃棄する必要もなく、環境への配慮も実現しています。

1-2. 添付品の確認

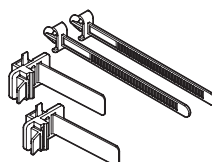
添付品の内容をご確認ください。

1-2-1 プロジェクター本体の添付品

☐ プロジェクター本体（本機）



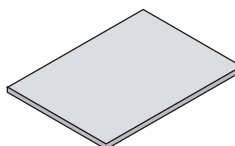
☐ 電源コードストッパー



☐ サービスドア用キー 2 個



☐ Important Information



☐ 保証書

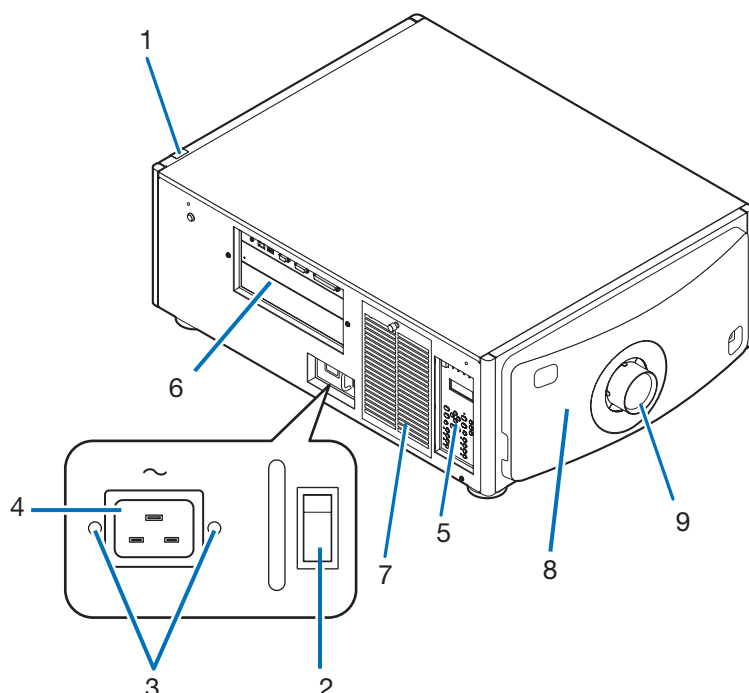


参考

万一添付品などが不足していたり破損している場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。添付品の外観が本書のイラストと多少異なる場合がありますが、実用上の支障はありません。

1-3. 各部の名称

1-3-1. 本体前面



1 SYSTEM ステータスインジケータ

本機の状態を表示します。正常に動作しているときは緑色またはオレンジ色で点灯／点滅します。異常がある場合は赤色で点灯／点滅します。異常の場合は、液晶表示画面の表示内容を確認してください（☞ 62 ページ）。

2 主電源スイッチ

AC 電源を供給した状態で、主電源スイッチを「|」（ON）」にすると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

3 電源コードストッパー

本体側の電源プラグが抜け落ちることを防ぎます。

4 AC IN 端子

AC 電源コードを接続します。AC 電源コードは添付されていません。AC コードについては、販売店にご相談ください。

5 本体操作部

プロジェクターの電源の入／切や、タイトル選択、投写した画面の各種調整を行います（☞ 22 ページ）。

6 接続端子部

各種映像信号のケーブルなどを接続します（☞ 21 ページ）。

別売のオプションボードを装着することにより、信号入力端子を拡張できます。別売のオプション製品については、お買い上げの販売店にご相談ください。

7 吸気口

プロジェクター内部の温度を下げるための外気吸気口です。ふさがないでください。ほこりの侵入を防ぐため、吸気口にはエアフィルターが取り付けられています。

8 リモートインターロック端子（本体前面内部）

本機でレーザを安全に使用するための端子です。外部から本機のレーザ照射を制御するときに使用します。ご使用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

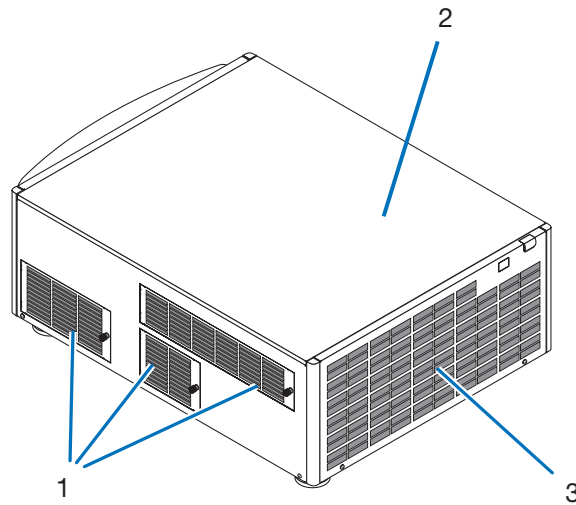
9 レンズ（別売品）

ここから映像が投写されます。レンズの取り付け、および交換については、お買い上げの販売店にご依頼ください。



動作中は吸気口および排気口をふさがないでください。吸気および排気が不十分な場合、内部の温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

1-3-2. 本体背面



1 吸気口

プロジェクター内部の温度を下げるための外気吸気口です。ふさがないでください。ほこりの侵入を防ぐため、吸気口にはエアフィルターが取り付けられています。

2 ブザー（本体背面内部）

AC 電源の供給時やエラー発生時にブザー音が鳴ります。

3 排気口

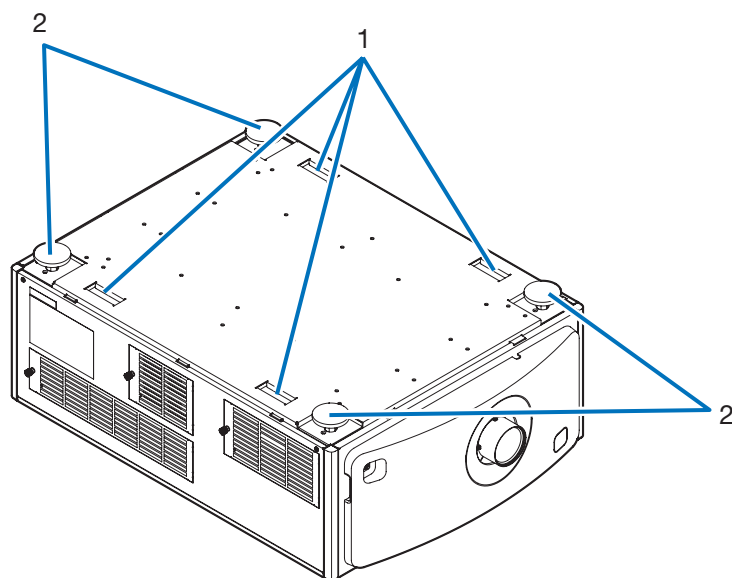
プロジェクター内部の熱を排気します。ふさがないでください。



- ・ 使用中は排気口および本体後部に触らないでください。高温になっており、やけどの原因となることがあります。
- ・ 動作中は吸気口および排気口をふさがないでください。吸気および排気が不十分な場合、内部の温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

1. 添付品や名称を確認する

1-3-3. 本体底面



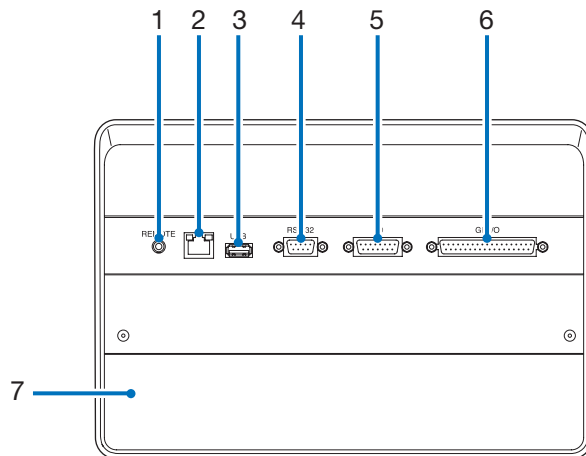
1 手掛け（4箇所）

プロジェクターを移動用の手掛けです。

2 アジャスター（4箇所）

通常設置の際に、プロジェクターの傾きを4箇所で調整することができます。

1-3-4. 接続端子部

**1 サービス専用端子 (REMOTE) (ステレオ・ミニ)**

サービスマンが本機を操作するとき 사용합니다。

2 LAN ポート (LAN) (RJ-45)

映像信号用サーバとのインターフェイスとして、またはコンピューターからプロジェクターを LAN 接続で制御する場合に 사용합니다。プロジェクターとコンピューターを市販の LAN ケーブル (10/100Base-T) で接続します。



・ 本機の有線 LAN 端子は公衆回線 (電気通信事業者から貸与またはレンタルされたルーターを含む) に直接接続することを意図して設計されていません。そのため有線 LAN 端子を公衆回線に直接接続することは電気通信事業法で禁止されています。

3 USB ポート (USB) (タイプ A)

プロジェクターのメンテナンスの際に 사용합니다。

4 PC コントロール端子 (RS-232) (D-Sub 9P)

コンピューターから RS-232C で本機を操作するときや、サービスマンがプロジェクターの設定を行うときに 사용합니다。プロジェクターとコンピューターを市販の RS-232C ストレートケーブルで接続します。

5 3D 端子 (3D) (D-Sub 15P)

本機に 3D 映像システムを接続するとき 사용합니다 (78 ページ)。

6 外部コントロール端子 (GP I/O) (D-Sub 37P)

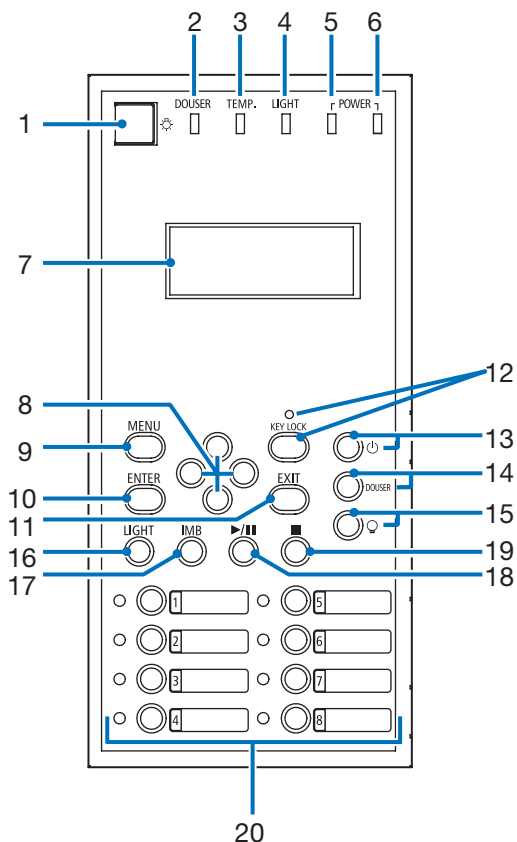
本機を外部からコントロールするときや、本機に 3D 映像システムを接続するとき 사용합니다 (73 ページ)。

7 スロット

IMB を装着できます。IMB の装着については、お買い上げの販売店にご相談ください。

IMB については、IMB の取扱説明書をご覧ください。

1-3-5. 本体操作部



1 **スイッチ (照明スイッチ)**

本体操作部の照明および液晶表示画面のバックライトの ON / OFF を切り替えます。

2 **<DOUSER> インジケータ**

ダウザーの開閉状態を表示します (● 61 ページ)。

3 **<TEMP.> インジケータ**

本体内部の温度の状態を表示します。本体内部の温度が使用温度の限界に近付いたり、使用温度を超過したりすると、点滅または点灯します (● 61 ページ)。

4 **<LIGHT> インジケータ**

光源の状態を表示します。光源が点灯しているときは点灯、消灯しているときは消灯します (● 61 ページ)。

5 **<POWER> インジケータ**

プロジェクターの本体ソフトウェアが起動した後、電源の状態を表示します (● 61 ページ)。

6 **<POWER (BOOT)> インジケータ**

主電源スイッチを ON にしたあと、プロジェクターの本体ソフトウェアが起動中の状態を表示します (● 61 ページ)。本体ソフトウェアの起動と内部チェックが完了すると消灯します。

7 **液晶表示画面**

プロジェクターの操作を行う際のメニューや設定値を表示します。

8 **<UP/DOWN/LEFT/RIGHT> ボタン**

メニューを表示しているときにボタンを押すと、メニュー項目を選択できます。

9 **<MENU> ボタン**

各種設定・調整のメニューを表示します (● 47 ページ)。

10 <ENTER> ボタン

<ENTER> ボタンを押すと、選択しているメニュー項目を決定します。

11 <EXIT> ボタン

<EXIT> ボタンを押すと、1 つ前のメニュー項目に戻ります。

12 <KEY LOCK> ボタン

誤操作を防ぐため、本体操作部のボタンをロック (KEY LOCK) します。KEY LOCK が有効な場合、本体操作部のボタンを押しても機能しません。

KEY LOCK が解除された状態で <KEY LOCK> ボタンを 1 秒以上押すと、KEY LOCK が有効になります。

KEY LOCK が有効な状態で <KEY LOCK> ボタンを 1 秒以上押すと、KEY LOCK が解除されます (● 39 ページ)。



初期設定ではスタンバイ状態で 30 秒間、本体操作部を操作しないと、自動的に KEY LOCK が有効になります。
(● 39 ページ)

13 ㊦ ボタン (電源ボタン)

プロジェクターの電源を入/切 (スタンバイ状態) します。3 秒以上押してください (● 32 ページ)。

プロジェクターの電源を入れる際は、主電源スイッチを ON にして、スタンバイ状態にしてください (● 32 ページ)。

14 <DOUSER> ボタン

<DOUSER> ボタンを押すと、ダウザーの開閉を行います (● 33 ページ)。

15 ㊦ ボタン (LIGHT ON/OFF ボタン)

本機の電源が入った状態で、光源を点灯/消灯できます。3 秒以上押してください (● 40 ページ)。

16 <LIGHT> ボタン

光源の調整メニューを表示します (● 38 ページ)。

17 <IMB> ボタン (今後のアップデートで対応予定)

本機に IMB が装着されているときに使用できます。

<IMB> ボタンを押すと、IMB の操作メニューを表示します。

18 <再生 / 一時停止> ボタン (今後のアップデートで対応予定)

本機に IMB が装着されているときに使用できます。

<再生 / 一時停止> ボタンを押すと、映像コンテンツを再生 / 一時停止できます。

19 <停止> ボタン (今後のアップデートで対応予定)

本機に IMB が装着されているときに使用できます。

<停止> ボタンを押すと、映像コンテンツの再生を停止できます。

20 プリセットボタン

プリセットボタンを押すと、各ボタンに割り当てられたタイトル (入力信号) を選択できます。本機は 100 件のタイトル登録 (入力信号の登録) が可能で、登録したタイトルのうち任意の 16 件をプリセットボタンに割り当てることができます。タイトルの登録、変更については販売店にご依頼ください。

プリセットボタンのインジケータは、タイトルの割り当て / 選択状態を表示します (● 60 ページ)。



プリセットボタンに登録したタイトルを選択する場合、次のように操作してください。

プリセットボタン 1 ～ 8 に登録したタイトルを選択する

プリセットボタンの番号に対応したボタン (<1> ～ <8> ボタン) を押します。

・ <1> ボタンを押す：プリセットボタン 1 を選択します。

・ <8> ボタンを押す：プリセットボタン 8 を選択します。

プリセットボタン 9 ～ 16 に登録したタイトルを選択する

<UP> ボタンを押しながら、プリセットボタン (<1> ～ <8> ボタン) を押します。

・ <UP> ボタンを押しながら <1> ボタンを押す：プリセットボタン 9 を選択します。

・ <UP> ボタンを押しながら <8> ボタンを押す：プリセットボタン 16 を選択します。

2.

設置と接続

2-1. 設置と接続の流れ

プロジェクターを設置する場合は、次の流れで行います。

●ステップ1

スクリーンとプロジェクターを設置する（→お買い上げの販売店にご依頼ください）

●ステップ2

電源コードを接続する（👉 25 ページ）

●ステップ3

映像入力端子と接続する（👉 29 ページ）

各種コントロール端子と接続する（👉 29 ページ）

2-2. 電源コードを接続する

本機には電源コードは添付していません。使用する国の規格・電源電圧に適合した電源コードを使用してください。電源コードの選定および手配は、販売店にご依頼ください。



警告

接続する前に、この節に記載された内容をよくお読みのうえ、正しい手順で接続してください。誤った取り扱いをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



注意

- ・電源コードを接続するときは、本機の主電源スイッチが OFF になっていることを確認し、AC 電源を遮断した状態で行ってください。
- ・機器の安全確保のため、使用する国の規格および電源電圧に適合する電源コード（○70 ページ）を使用して、機器のアースを必ず接続してください。アースが接続されていないと感電の原因となります。
- ・電源コードのプラグを AC IN 端子およびコンセントに接続するときは、奥までしっかり差し込んでください。電源コードのプラグとコンセントの接続がゆるいと、プラグ部分が発熱し、やけどや事故の原因となることがあります。

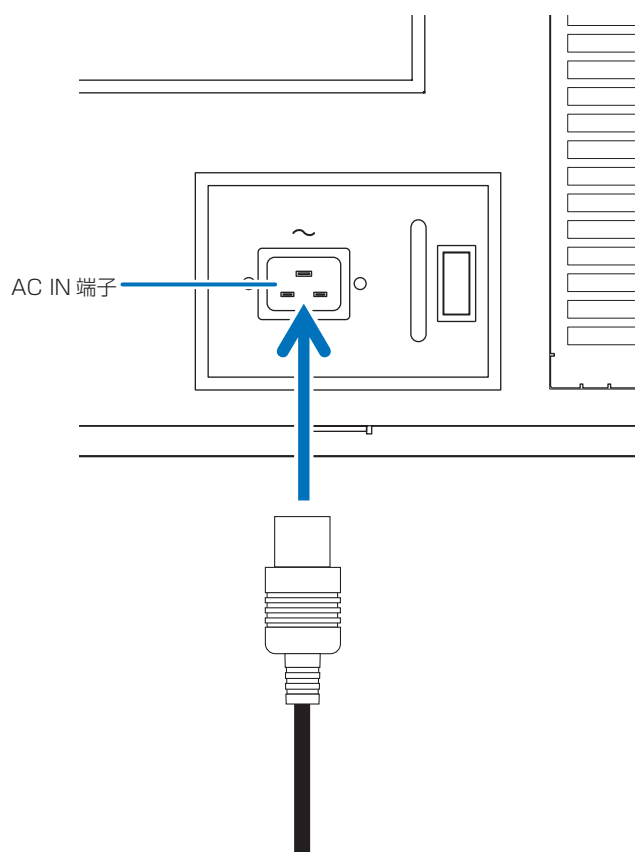
重要

- ・ AC 電源コードを外すことによって電源を遮断できるよう、コンセントはプロジェクター本体の近くに配置してください。
- ・ 本機の電源コードの取り付けは、主電源スイッチが「○（OFF）」の状態で行ってください。主電源スイッチが「|」（ON）」の状態では電源コードの取り付けを行うと、故障の原因となります。
- ・ 三相 200V の電源には接続しないでください。故障の原因となります。

2. 設置と接続

❶ AC 電源コードをプロジェクターの AC IN 端子に接続する。

しっかりと奥まで差し込んでください。



❷ 電源プラグをコンセントに接続する。

これで、AC 電源コードの接続は完了です。

電源コードストッパーの使いかた

本体側の電源プラグが抜け落ちないように、添付の電源コードストッパーを使って固定します。



注意

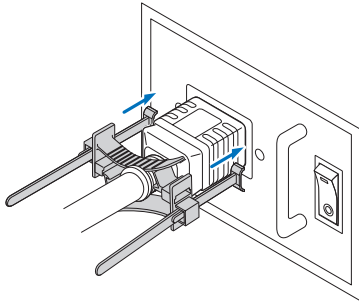
- ・ 本機の AC IN 端子に電源コードを接続する際はプラグを奥までしっかり挿し込み、必ず電源コードストッパーを使って固定してください。
電源コードの接続が緩むと、火災・感電の原因となるおそれがあります。
- ・ 電源コードを束ねて（丸めて）固定しないでください。コードが発熱して火災の原因となるおそれがあります。



- ・ 他の信号ケーブルと一緒にクランプしないでください。信号ケーブルにノイズの影響を与えるおそれがあります。
- ・ 電源コードストッパーを本体に取り付けると、取り外しできません。

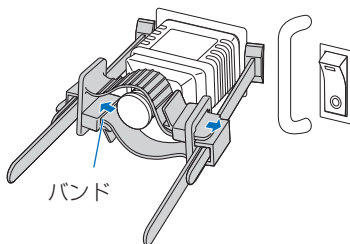
電源コードストッパーの取り付け

- 1 クランプ部を電源コード側の向きにして、電源コードストッパーの先端をプロジェクター本体の取り付け穴に合わせて、押し込む。**



- 2 電源コードストッパーのスリットに互いのバンドを通す。**

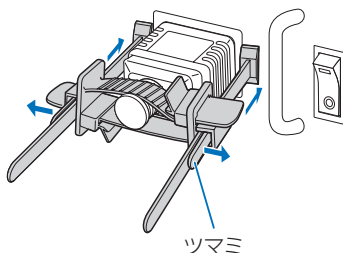
電源コードを上下に挟むようにバンドを通してください。



- 3 電源コードの根元までクランプ部をスライドさせる。**

矢印の方向にツマミを引くと、クランプ部の位置を調整できます。

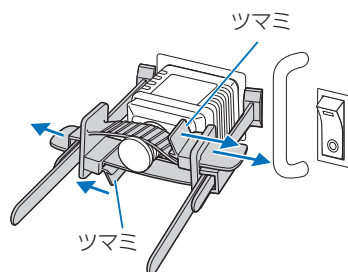
クランプ部の位置を調整したら、ツマミを離してクランプ部を固定します。



2. 設置と接続

4 バンドを引き、電源コードを固定する。

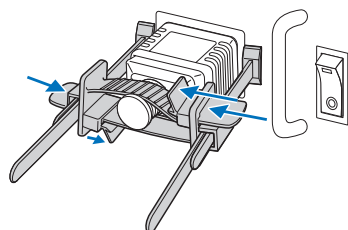
矢印の方向にツマミを引くと、バンドの位置を調整できます。
上下のバンドはバランスよく引いてください。
バンドの位置を調整したら、ツマミを離して固定します。



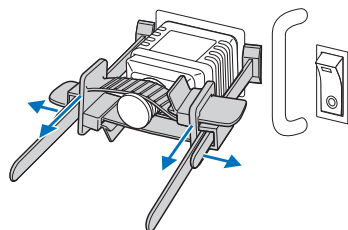
これで、電源コードストッパーの取り付けは完了です。

電源コードの取り外し

1 クランプ部のツマミを引き、バンドをゆるめる。



2 ツマミを引き、電源プラグから離れたところにクランプ部をスライドさせる。



注意

電源を切ったとき、および投写中に AC 電源を切断したときは、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

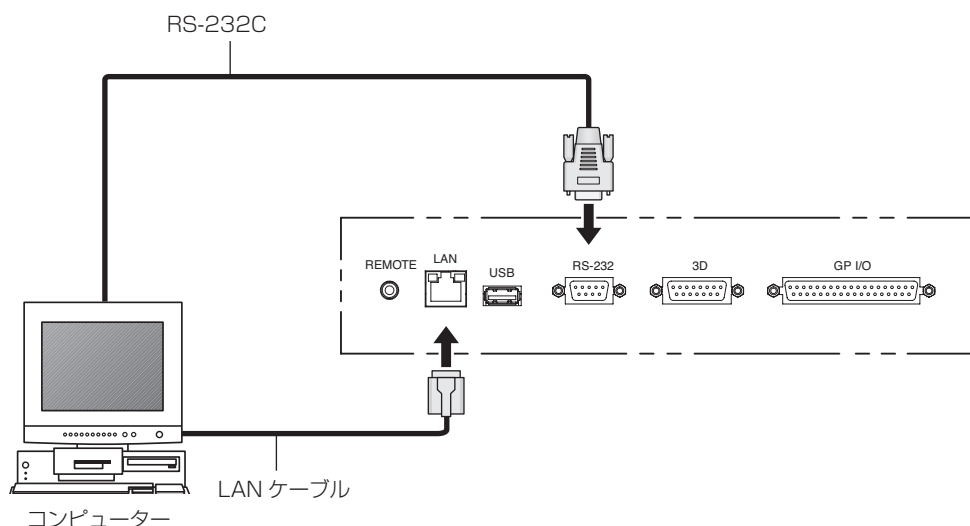
2-3. 映像入力端子と接続する

IMB で使用できる映像入力端子と外部機器との接続については、IMB の取扱説明書をご覧ください。

2-4. 各種コントロール端子と接続する

プロジェクターには、コントロール用として、PC コントロール端子、LAN ポート (RJ-45) などがあります。

- PC コントロール端子 (RS-232) コンピューターからプロジェクターをシリアル接続で制御する場合に使用します。
- LAN ポート (LAN) コンピューターからプロジェクターを LAN 接続で制御する場合に使用します。



3.

映像を投写する（基本操作）

3-1. 映像を投写する流れ

●ステップ1

プロジェクターの電源を入れる（▶ 31 ページ）

●ステップ2

入力信号のタイトルを選択する（▶ 34 ページ）

●ステップ3

投写画面の位置と大きさを調整する（▶ 35 ページ）

●ステップ4

プロジェクターの電源を切る（▶ 41 ページ）

3-2. 本機の電源を入れる



警告

プロジェクターは強い光を投写します。電源を入れる際は、プロジェクター本体の側面または背面（侵入禁止範囲（HD）の外）で操作してください。また、投写範囲内にレンズを見ている人がいないことを確認してください。



注意

- ・調整はプロジェクターの後ろまたは横から行ってください。前面で調整すると強い光が目に入り、視力障害の原因となります。
- ・レンズシフト動作中は、レンズユニット取り付け部の周囲に手を近づけないでください。キャビネットとレンズユニットの隙間に指を挟むおそれがあります。

準備： ・電源ケーブルをプロジェクター（☉ 25 ページ）に接続します。
・プロジェクター本体に AC 電源を供給します。

重要

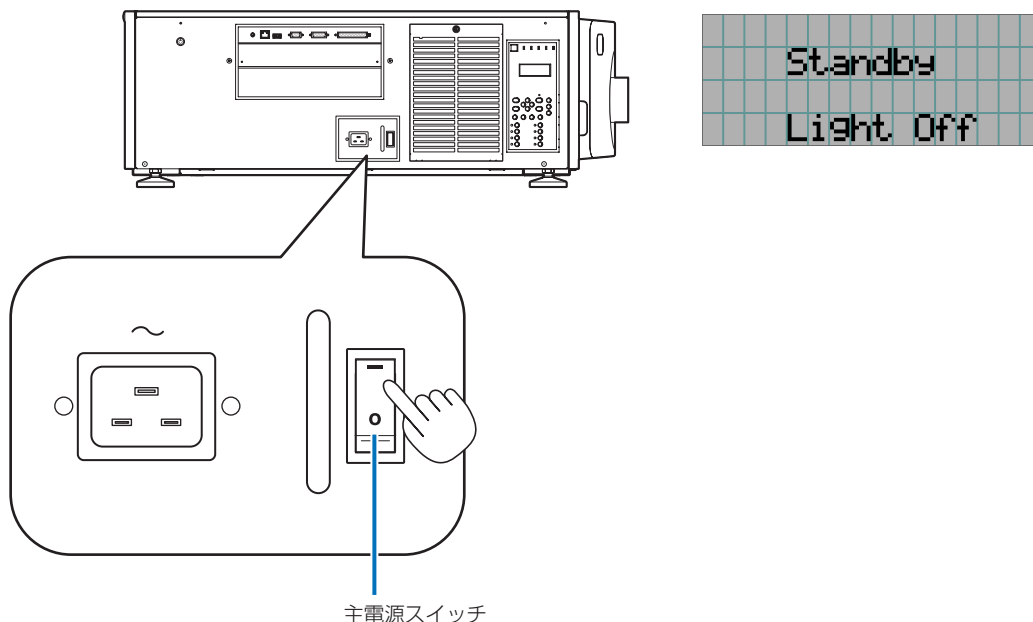
- ・プロジェクターに AC 電源を供給または遮断する場合は、主電源スイッチが OFF の状態で行ってください。主電源スイッチが ON の状態で電源の供給／遮断を行うと、故障の原因となります。
 - ・プロジェクターの電源の入／切は、「主電源スイッチ」と「<POWER> ボタン」の 2 段階の操作で行います。
- 電源を入れる（☉このページ）
- [1] プロジェクター本体の「主電源スイッチ」を ON にする。
プロジェクターがスタンバイ状態になります。
 - [2] KEY LOCK が有効な場合、<KEY LOCK> ボタンを 1 秒以上押す。
KEY LOCK が解除され、本体操作部のボタンを操作できるようになります。
 - [3] <POWER> ボタンを 3 秒以上押す。
プロジェクターの電源が入ります。
- 電源を切る（☉ 41 ページ）
- [1] <POWER> ボタンを 3 秒以上押す。
プロジェクターがスタンバイ状態になります。
 - [2] プロジェクター本体の「主電源スイッチ」を OFF にする。
プロジェクターの電源が切れます。

3. 映像を投写する（基本操作）

1 レンズキャップを外す。

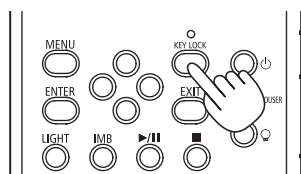
2 プロジェクター本体側面にある主電源スイッチを ON にする。

プロジェクターのブザーが鳴り、<POWER> ボタンのインジケータが緑色に点滅し、SYSTEM ステータスインジケータがオレンジ色で点灯します（スタンバイ状態）。初期設定では、スタンバイ状態で 30 秒間、本体操作部を操作しないと、自動的に KEY LOCK が有効になります。KEY LOCK が有効な場合、本体操作部のボタンを押しても機能しません（▶ 39 ページ）。



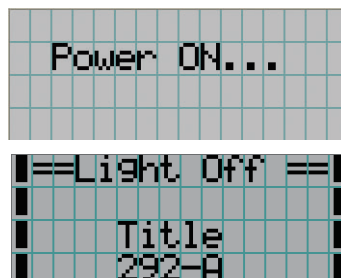
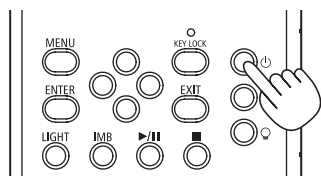
5 KEY LOCK が有効な場合、<KEY LOCK> ボタンを 1 秒以上押す。

KEY LOCK が解除されます。<KEY LOCK> ボタンのインジケータが消灯して、本体操作部のボタンを操作できるようになります（▶ 39 ページ）。



6 本体操作部の <POWER> ボタンを 3 秒以上押す。

プロジェクターの電源が入ります。



3. 映像を投写する（基本操作）

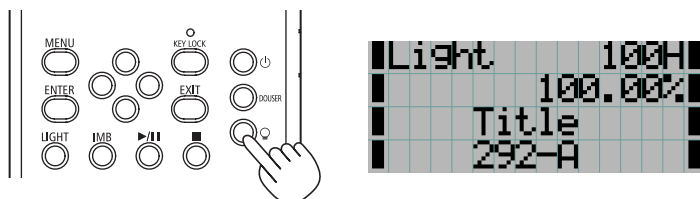
プロジェクターの起動が完了すると、<POWER> ボタン、<DOUSER> ボタン、<LIGHT ON/OFF> ボタンおよびプリセットボタン（<1>～<8> ボタン）のインジケータが以下のように変化します。

<POWER> ボタン	緑色で点灯
<DOUSER> ボタン	初期設定：消灯（ダウザー OFF）
<LIGHT ON/OFF> ボタン	初期設定：緑色で点滅（光源 OFF）
<1>～<8> ボタン	最後に選択したプリセットボタンが緑色で点灯

7 本体操作部の <LIGHT ON/OFF> ボタンを 3 秒以上押す。

光源が点灯し、約 15 秒後にスクリーンが明るくなります。<LIGHT ON/OFF> ボタンのインジケータが緑色で点滅（2 回周期）します（90 秒後、点灯（緑色）に変わります）。

スクリーンが明るくなるまでの間、ダウザーが閉じます（<DOUSER> ボタンのインジケータが緑色で点灯します）。ダウザーが開くと、<DOUSER> ボタンのインジケータが消灯します。



注意

- ・ プロジェクターの電源が入っている間は、レンズからレンズキャップを外しておいてください。高温になりレンズキャップが変形する場合があります。
- ・ 次のような場合は、<POWER> ボタンを押しても電源が入りません。
 - ・ 内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待って（内部の温度が下がって）から電源を入れてください。
 - ・ 電源を入れても光源が点灯せず、SYSTEM ステータスインジケータが赤色で点滅している場合は、プロジェクターが故障している可能性があります。液晶画面のエラー表示を確認し、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
 - ・ プロジェクターの電源を入れる際は、レンズの方を向いている人がレーザーの射出光路上にいないことを確認してください。

3-3. 入力信号のタイトルを選択する

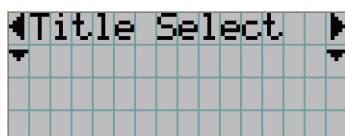
本機では、あらかじめ登録したタイトル（入力信号）を本体操作部のプリセットボタンから選択することができます（最大16タイトルまで）。タイトルの登録、変更については販売店にご依頼ください。ここでは登録されたタイトルを選択する手順について説明します。

1 プロジェクターに接続している映像機器などの電源を入れる。

2 <MENU> ボタンを押す。

3 <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、液晶画面に「Title Select」を表示する。

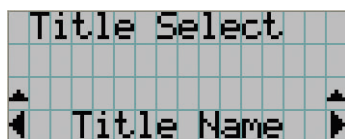
<LEFT/RIGHT> ボタンを押すと、「Title Select」 ↔ 「Configuration」 ↔ 「(Title Setup)」 ↔ 「Information」と表示が変わります。



4 <DOWN> ボタンを押す。

入力信号のタイトルが表示されます。

・間違って選択した場合は、<UP> ボタンを押してください。1 つ前のメニューに戻ります。

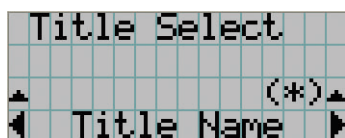


5 <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、液晶画面に「投写する信号のタイトル」を表示する。

6 <ENTER> ボタンを押す。

投写する信号のタイトルが選択されます。

・液晶画面に表示されている（*）印は、現在選択されている項目であることを表しています。

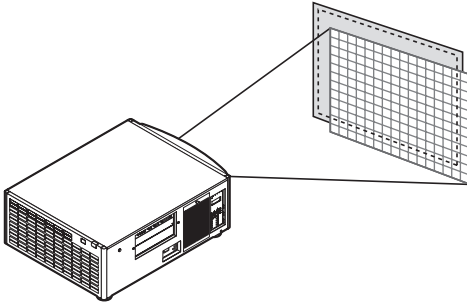


3-4. 投写画面の位置と大きさを調整する

3-4-1. テストパターンの表示

- 1** <MENU> ボタンを押す。または、プリセットボタン（<1> ～ <8> ボタン）からテストパターンを選択する。

プリセットボタン（<1> ～ <8> ボタン）にテストパターンを登録している場合は、「3-3. 入力信号のタイトルを選択する（34 ページ）」に従ってテストパターンを選択します。



- 2** <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、液晶画面に「Title Select」を表示する。

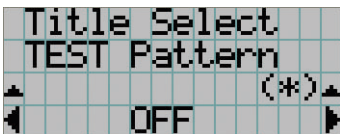


- 3** <DOWN> ボタンを押す。
入力信号のタイトルが表示されます。



- 4** <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、液晶画面に「TEST Pattern」を表示する。

- 5** <DOWN> ボタンを押す。
テストパターンを選択するモードになります。

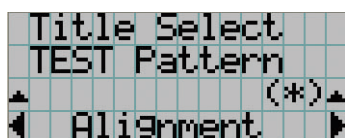


- 6** <LEFT/RIGHT> ボタンを押す。
液晶画面のテストパターン名表示が切り替わります。

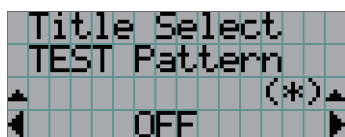
3. 映像を投写する（基本操作）

- 7** 投写するテストパターン名を液晶画面に表示して、<ENTER> ボタンを押す。

テストパターンが表示されます。



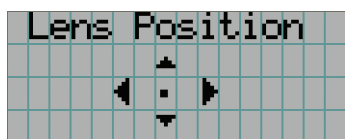
テストパターンの表示を解除する場合は、投写する信号のタイトルを選択するか、テストパターン“OFF”を選択します。



3-4-2. 投写画面の位置の調整（レンズシフト）

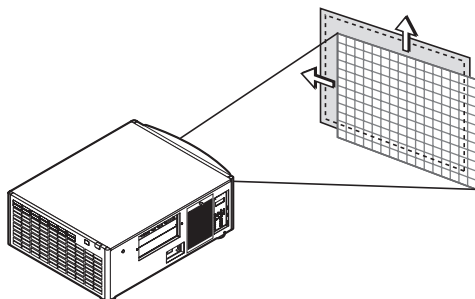
- 1** <MENU> ボタンを押す。
- 2** <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、液晶画面に「Configuration」を表示する。
- 3** <DOWN> ボタンを押す。
- 4** <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、液晶画面に「Lens Control」を表示する。
- 5** <DOWN> ボタンを押す。

投写画面の位置の調整画面（「Lens Position」）が表示されます。



- 6** <UP/DOWN/LEFT/RIGHT> ボタンを押す。

投写画面の位置が上下左右に移動します。



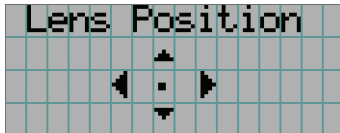
- 7** 調整が完了したら、<EXIT> ボタンを押す。

1つ上の階層（「Lens Control」が表示されている画面）に戻ります。

3-4-3. 投写画面の大きさの調整（ズーム）、フォーカス調整（フォーカス）

- ❶ <MENU> ボタンを押す。
- ❷ <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、液晶画面に「Configuration」を表示する。
- ❸ <DOWN> ボタンを押す。
- ❹ <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、液晶画面に「Lens Control」を表示する。
- ❺ <DOWN> ボタンを押す。

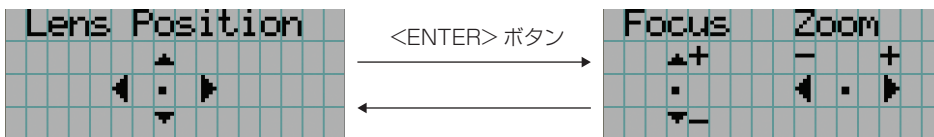
投写画面の位置の調整画面（「Lens Position」）が表示されます。



- ❻ <ENTER> ボタンを押す。

投写画面の大きさ、フォーカスの調整画面が表示されます。

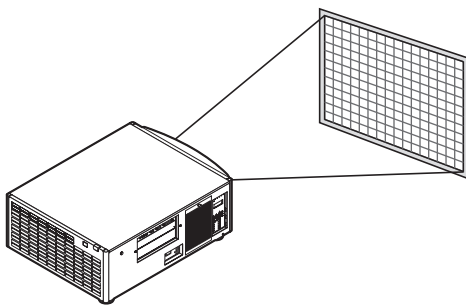
<ENTER> ボタンを押すと、調整画面（「Lens Position」、「Focus Zoom」）を切り替えます。



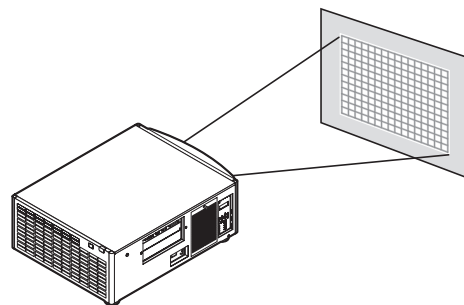
- ❼ 投写画面の大きさ、フォーカスを調整する。

<UP/DOWN> ボタンを押すと、フォーカスを調整できます。

<LEFT/RIGHT> ボタンを押すと、投写画面の大きさを調整できます。



フォーカス
(<UP/DOWN> ボタン)



ズーム
(<LEFT/RIGHT> ボタン)

- ❽ 調整が完了したら、<EXIT> ボタンを押す。

1つ上の階層（「Lens Control」が表示されている画面）に戻ります。

3. 映像を投写する（基本操作）

3-4-4. 投写画面の明るさ調整（光源の出力）

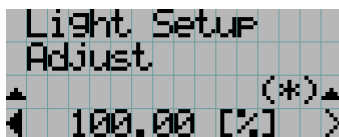
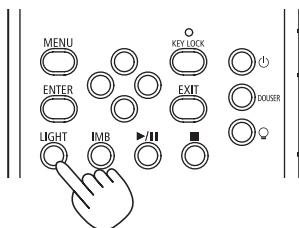


注意

室温が高いことにより本機内部の温度が上昇すると、光源の出力が自動的に下がる場合があります。これは、本機の保護機能の一つで「温度保護モード」と呼びます。温度保護モードになると、画面が少し暗くなります。温度保護モードを解除するには、光源の出力を調整してください。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

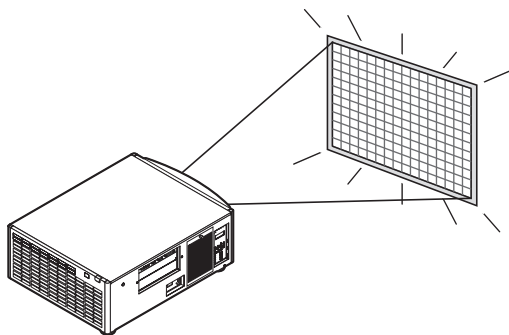
1 <LIGHT> ボタンを押す。

光源の出力調整画面が表示されます。



2 <LEFT/RIGHT> で光源の出力を調整する。

設定した調整値が適用されます。



3-5. 誤操作を防止する

誤操作を防ぐため、本体操作部のボタンをロック（KEY LOCK）できます。KEY LOCK が有効な場合、本体操作部のボタンを押しても機能しません。操作するためには、KEY LOCK を解除する必要があります。

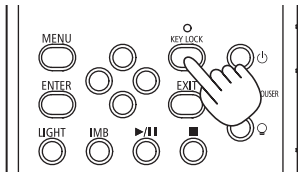
重要

- ・ 次の場合は、自動的に KEY LOCK が有効になります。
 - ・ 本機に AC 電源を供給している状態で、主電源スイッチをオンにして、スタンバイ状態になったとき。
 - ・ <POWER> ボタンで本機の電源を切り、スタンバイ状態になったとき。
- ・ 本機がスタンバイ状態になったときに KEY LOCK が有効になるタイミングは、調整メニューの「Auto Key Lock」の設定により異なります。
 - ・ Auto Key Lock が有効（Enable）な場合、スタンバイ状態になってから 30 秒間、本体操作部を操作しないと、自動的に KEY LOCK が有効になります。KEY LOCK を解除しても、30 秒間無操作状態が続くと、自動的に KEY LOCK が有効になります。
 - ・ Auto Key Lock が無効（Disable）な場合、スタンバイ状態になると自動的に KEY LOCK が有効になりますが、KEY LOCK を解除した後は、解除された状態のままになります。

3-5-1. KEY LOCK の設定

- ・ 本体操作部の <KEY LOCK> ボタンを 1 秒以上押す。

KEY LOCK が有効になります。<KEY LOCK> ボタンのインジケータがオレンジ色に点灯します。KEY LOCK が有効な状態で本体操作部のボタンを押したときは、“Panel is Locked. (KEY LOCK)” と表示され、機能しません（➡ 43 ページ）。



3-5-2. KEY LOCK の解除

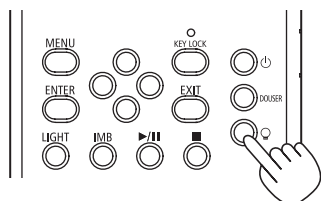
- ・ KEY LOCK が有効なときに、本体操作部の <KEY LOCK> ボタンを 1 秒以上押す。

KEY LOCK が解除されます。<KEY LOCK> ボタンのインジケータが消灯します。

3-6. 本機の電源を入れた状態で光源を点灯 / 消灯する

3-6-1. 光源の消灯

- 本体操作部の <LIGHT ON/OFF> ボタンを 3 秒以上押す。



3-6-2. 光源の点灯

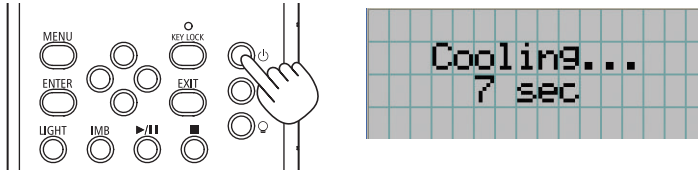
- 本体操作部の <LIGHT ON/OFF> ボタンを 3 秒以上押す。

3-7. 本機の電源を切る

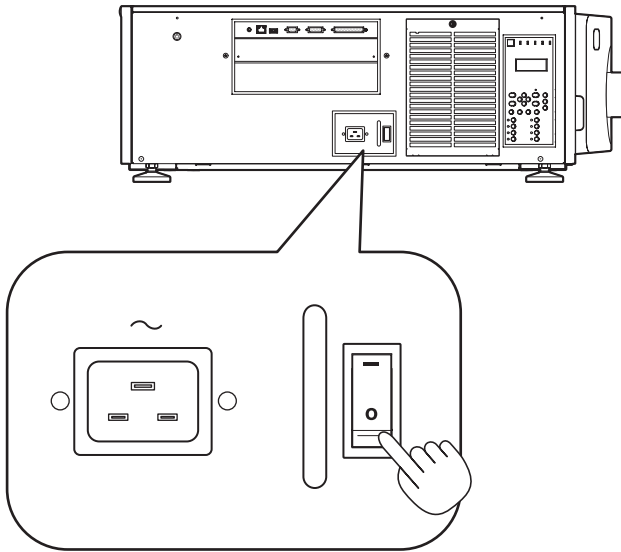
1 本体操作部の <POWER> ボタンを 3 秒以上押す。

光源が消え、<POWER> ボタンのインジケータが緑色、SYSTEM ステータスインジケータがオレンジ色で点滅します（クーリング状態）。

クーリング中はファンが回転し、液晶画面にクーリングの残り時間が表示されます。クーリング時間は 90 秒間です。クーリングが終了すると、<POWER> ボタンのインジケータが消灯し、SYSTEM ステータスインジケータがオレンジ色で点灯します（スタンバイ状態）。初期設定では、スタンバイ状態で 30 秒間、本体操作部を操作しないと、自動的に KEY LOCK が有効になります。KEY LOCK が有効な場合、本体操作部のボタンを押しても機能しません（▶ 39 ページ）。



2 スタンバイ状態になってから、プロジェクター本体の主電源スイッチを OFF にする。



3 プロジェクター本体の電源プラグをコンセントから抜く。



次のような場合は、主電源スイッチを切ったり、電源プラグをコンセントから抜いたり、AC 電源コードを接続しているブレーカを切ったりしないでください。機器が故障するおそれがあります。

- ・ 投写中
- ・ 光源が消灯したあとのクーリング中
- ・ Power Off したあとのクーリング中。
 - IMB 使用時：90 秒
- ・ IMB 動作中（プロジェクター本体がスタンバイ状態になっていないとき）

4.

調整メニュー

4-1. 調整メニューの基本操作

プロジェクターの調整は、本体操作部の液晶画面にメニューを表示して行います。

4-1-1. 画面表示

メニュー表示画面は、メニュー表示部（上の2行）と設定項目の表示部（下の2行）から構成されています。

Title Select	← メインメニューまたはサブメニューを表示します。
TEST Pattern	← サブメニューまたは選択項目を表示します。
(*)	← 設定・選択状態を表示します。
Alignment	← 設定・選択項目、または選択されているメニューの情報を表示します。

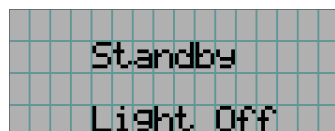
メニュー表示画面の記号の意味は、次のとおりです。

	上の階層のメニューがあることを示します。 <UP> ボタンを押すと、上の階層のメニューに戻ります。
	同階層に選択項目またはメニューがあることを示します。 <LEFT/RIGHT> ボタンを押すと、他の選択項目またはメニューが表示されます。
	下の階層にメニューまたは設定項目があることを示します。 <DOWN> ボタンを押すと、下の階層を表示します。
	上下の階層に設定項目があることを示します。 <UP> ボタンを押すと、上の階層のメニューに戻ります。 <DOWN> ボタンを押すと、下の階層の設定項目を表示します。

メニューを表示していないときは、通常、次に示す画面が表示されます。

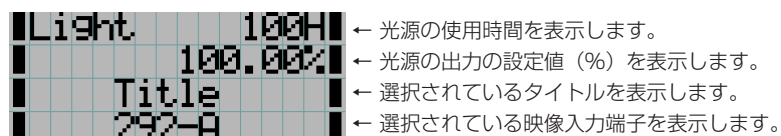
スタンバイ時

プロジェクター本体がスタンバイ状態（主電源スイッチが ON）のときは、次のように表示されます。



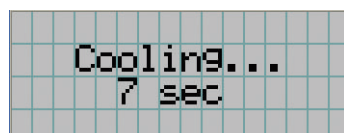
電源が入っているとき

電源が入っているときは、次のように表示されます。



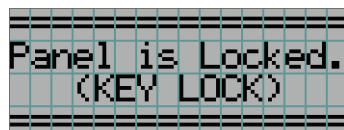
電源を切ったとき

本体操作部の <POWER> ボタンを 3 秒以上押すと、プロジェクター本体はクーリングを開始します。クーリングが完了すると、プロジェクター本体はスタンバイ状態になります。クーリング中は次のようにクーリングの残り時間が表示されます。



KEY LOCK が有効な状態でボタンを押したとき

KEY LOCK が有効な状態で本体操作部のボタンを押したときは、次のように表示され、機能しません。



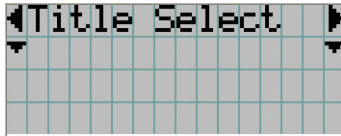
4. 調整メニュー

4-1-2. メニューを操作する

準備：プロジェクターの電源を入れてください (▶ 31 ページ)。

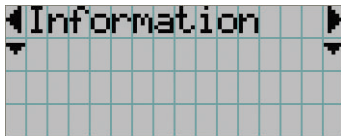
1 本体操作部の <MENU> ボタンを押す。

液晶画面にメニューが表示されます。



2 <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、“Information” を選択する。

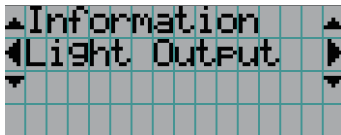
<LEFT/RIGHT> ボタンを押すと、“Title Select” ↔ “Configuration” ↔ “(Title Setup)” ↔ “Information” と表示が変わります。



3 <DOWN> ボタンを押す。

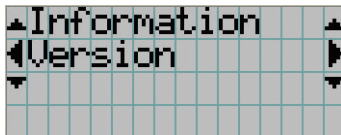
“Information” のサブメニュー “Light Output” が表示されます。

- ・ <DOWN> ボタンの代わりに、<ENTER> ボタンを押しても項目を選択できます。
- ・ 1 つ前の状態に戻る場合は、<UP> ボタン、または <EXIT> ボタンを押します。



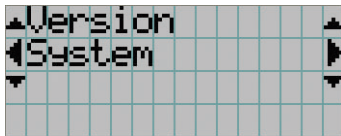
4 <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、サブメニュー “Version” を選択する。

<LEFT/RIGHT> ボタンを押すと、“Light Output” ↔ “Lens Type” ↔ “Preset Button” ↔ “Usage” ↔ “Error Code” ↔ “Version” ↔ “IP Address” ↔ “Setup Date” ↔ “Option Status” と表示が変わります。



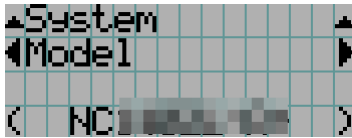
5 <DOWN> ボタンを押す。

“Version” のさらに下の階層のサブメニュー “System” が表示されます。

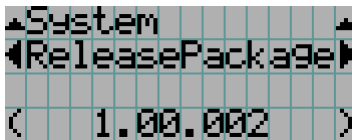


6 <DOWN> ボタンを押す。

“System” のさらに下の階層のサブメニュー “Model” が表示されます。

**7** <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、サブメニュー “Release Package” を選択する。

<LEFT/RIGHT> ボタンを押すと、Model ↔ Serial No. ↔ Release Package ↔ Kernel ↔ U-Boot ↔ System Files ↔ CinemaFirmware ↔ Cinema Data ↔ ICP Firmware ↔ ICP ConfigFile ↔ FMT FPGA ↔ Secure Processor ↔ Slave BIOS ↔ Slave Firmware ↔ Slave Data ↔ SSL FPGA ↔ LD Driver1 ↔ LD Driver2 ↔ LD Driver3 と表示が変わり、各種バージョン情報が表示されます。

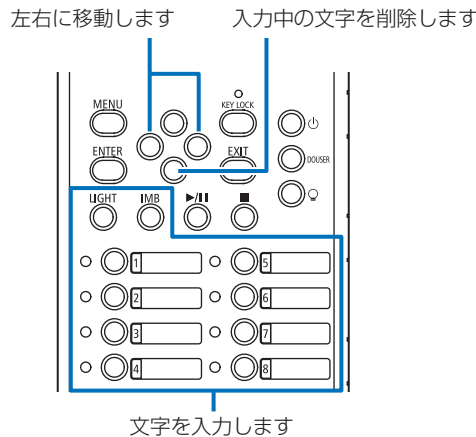
**8** <UP> ボタンを数回押す。

<UP> ボタンを押すたびに、1 つずつ上の階層に戻ります。

4. 調整メニュー

4-1-3. 英数字の入力方法

指定した期間のログファイルを USB メモリに書き出すときなど、英数字を入力することがあります (65 ページ)。
本機では、本体操作部のボタンを押して文字を入力します。



各ボタンを押すと、下の表のように文字が入力できます。
入力中の文字を削除する場合は、文字の入力中に <DOWN> ボタンを押します。

【入力例】

「XGA」と入力するには次のように操作します。

- (1) <8> ボタンを3回押す。
V → W → X
- (2) <RIGHT> ボタンを押す。
- (3) <3> ボタンを押す。
XG
- (4) <RIGHT> ボタンを押す。
- (5) <1> ボタンを押す。
XGA

ボタン	入力文字列
<1>	A → B → C → 1 → a → b → c → ! → ↑
<2>	D → E → F → 2 → d → e → f → " → ↑
<3>	G → H → I → 3 → g → h → i → # → ↑
<4>	J → K → L → 4 → j → k → l → \$ → ↑
<5>	M → N → O → 5 → m → n → o → % → ↑
<6>	P → Q → R → 6 → p → q → r → & → ↑
<7>	S → T → U → 7 → s → t → u → ' → ↑
<8>	V → W → X → 8 → v → w → x → (→ ↑
<LIGHT>	Y → Z → / → 9 → y → z → ? →) → ↑
<IMB>	* → , → . → 0 → ; → : → + → - → ↑

4-2. 調整メニュー一覧

() で示すメニューは、サービスマン用のメニューです。通常時は使用できません。

メインメニュー	サブメニュー		説明	参照ページ
Title Select	"Title Memory 名"		投写する信号のタイトルを選択します。	48
	TEST Pattern		投写するテストパターンを選択します。	48
Configuration	Light Setup	Adjust	光源の明るさを調整します。	48
	Lens Control	Lens Position	投写画面の位置を調整します。	49
		Focus Zoom	投写画面の大きさの調整、フォーカス調整を行います。	49
	Reset	(FactoryDefault)	設定値を工場出荷状態に戻します。プリセットボタンとタイトルのみ、LAN 設定のみ、すべての設定の 3 種類を設定できます。	—
		Filter Cleaning	エアフィルター使用時間（清掃時期の確認用）をリセットします。	49
		(Fan Usage)	ファン使用時間をリセットします。	—
		(Light Usage)	光源の使用時間をリセットします。	—
		(Phosphor)	フォスファールの使用時間をリセットします。	—
		(Diffuser)	ディフューザーの使用時間をリセットします。	—
	(Setup)	Douser Setup	ダウザーの開閉状態を設定します。	—
		Panel Key Lock	本体操作部の操作ボタンをロックして操作できないようにします。	—
		Auto Key Lock	Auto Key Lock の有効／無効を選択します。	—
		3D Reference	3D 映像システム用の信号入力端子を設定します。	—
		Off Timer	自動的にプロジェクターの電源が切れるまでの時間を設定します。	—
		Message	光源交換時期、エアフィルター交換時期、エアフィルター清掃時期を示すメッセージを表示する時間を設定します。	—
		Silent Mode	ステータスインジケータ、ブザー、本体操作部のインジケータおよびバックライトの有効／無効を選択します。	—
	Installation(注)	(Option Slot)	(スタンバイ時のみ設定可能) スロットに取り付けた装置を設定します。	—
		(Orientation)	投写方法および冷却ファンの動作モードを設定します。	—
		Lens Type (注)	本機に取り付けたレンズの種類(レンズメモリ対応／非対応)を設定します。	—
		Lens Calibrate (注)	(プロジェクター本体の電源が入っているときのみ使用可能) レンズメモリ対応レンズのキャリブレーションを行います。	—
		Lens Center (注)	(プロジェクター本体の電源が入っているときのみ使用可能) レンズシフトの位置をセンターに移動します。	—
		(Baudrate)	PC コントロール端子 (RS-232) のデータ転送速度 (bps) を設定します。	—
		(Date/Time)	設置時に日付と時刻を設定します。	—
		(Fan Speed Mode)	冷却ファンの動作モードを設定します。	—
		(Service)	(スタンバイ時のみ使用可能) 影調整やレンズマウントの調整（フォーカスバランスの調整）をするときに使用します。	—
	(Memory)	Light	現在の光源の出力値を、選択したメモリ（光源メモリ）に上書きします。	—
		Lens	現在のレンズの調整値を、選択したメモリ（レンズメモリ）に上書きします。	—
(Title Setup)	Preset Button	Preset Button 1-16	プリセットボタン (<1> ~ <8> ボタン) に割り当てるタイトルを設定します。	50
Information	Light	Light Output	光源の明るさ（出力）の設定値を表示します。	50
		S/N	光源のシリアル番号を表示します。	50
	Lens Type		レンズタイプの設定を表示します。	50
	Preset Button	Preset Button 1-16	プリセットボタン (<1> ~ <8> ボタン) に割り当てられているタイトルを表示します。	50
	Usage		プロジェクターの使用状況に関する情報を表示します。	51
	Error Code		現在発生中のエラーを表示します。	51
	Version	System	プロジェクター本体の機種名や各種バージョン情報を表示します。	52
		IMB	メディアブロック (IMB) のベンダー名とバージョン情報を表示します。	52
	IP Address	System	プロジェクター本体の IP アドレスを表示します。	52
	Setup Date		本機を設置した日付（保証期間開始日）を表示します。	53
	Option Status		スロットに取り付けた装置とプロジェクター本体の接続状態を表示します。	53

(注) プロジェクター本体に Advanced User 以上の権限でログインする必要があります。

4. 調整メニュー

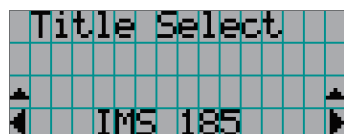
4-3. Title Select

4-3-1. タイトルの選択 (Title Memory)

投写する信号のタイトルを選択します。

タイトルは最大 100 個まで登録できます。また、登録したタイトルは、本体操作部のプリセットボタン (<1> ~ <8> ボタン) に割り当てて、操作ボタンから直接呼び出すことができます。

タイトルの登録、変更については販売店にご依頼ください。

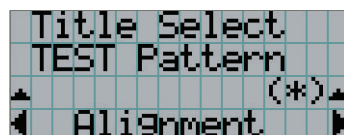


← 現在選択されている項目を(*)印で示します。

← 投写するタイトルを選択します。

4-3-2. Test Pattern

投写するテストパターンを選択します。



← 現在選択されている項目を(*)印で示します。

← 投写するテストパターンを選択します。

OFF、Alignment、Cross Hatch、Convergence、Red、Green、Blue、White、Black、White 50% [IRE]、H-Ramp、Logo、MCG CG-TEST

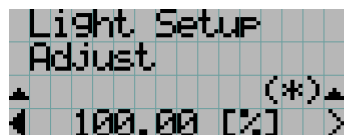
4-4. Configuration

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

4-4-1. Light Setup

Adjust

光源の出力（明るさ）を調整します。



← 光源の定格出力を 100% としたとき、現在の出力値 (%) を表示します。

4-4-2. Lens Control

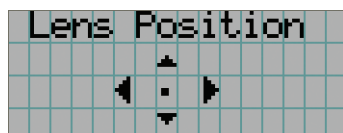
投写画面の位置、大きさ、フォーカスを調整します。

<ENTER> ボタンを押すと、調整画面(「Lens Position」,「Focus Zoom」)を切り替えられます。1 つ上の階層に戻るには、<EXIT> ボタンを押します。

Lens Position

投写画面の位置を調整します。

<UP/DOWN/LEFT/RIGHT> ボタンを押した方向に投写画面が移動します。

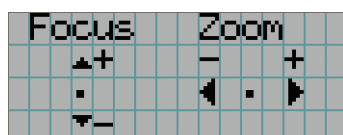


Focus Zoom

投写画面の大きさの調整（ズーム）、フォーカス調整（フォーカス）を行います。

<UP/DOWN> ボタンを押すと、フォーカス調整を行います。

<LEFT/RIGHT> ボタンを押すと、投写画面の大きさを調整します。



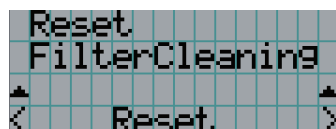
4-4-3. Reset

Filter Cleaning

エアフィルター使用時間（清掃時期の確認用）をリセットします。

[1] <ENTER> ボタンを押すと、確認画面が表示されます。

[2] 確認画面で “Yes” を選択して <ENTER> ボタンを押すと、フィルター使用時間がリセットされます。



← <ENTER> ボタンを押すと、確認画面を表示します。

4. 調整メニュー

4-5. Title Setup

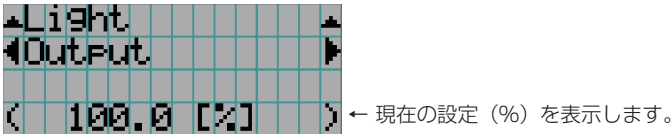
プリセットボタン（<1>～<8> ボタン）に割り当てるタイトルを設定します（最大 16 タイトル）。設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

4-6. Information

光源使用時間、バージョン情報、エラーコードなどを表示します。

4-6-1. Light

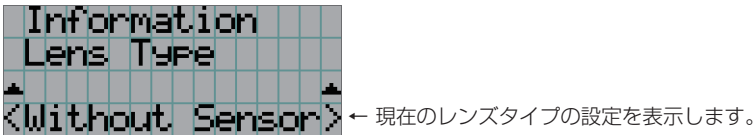
光源の情報を表示します。



Output	出力設定値 (%) を表示します。
S/N	ライトモジュールのシリアル番号を表示します。

4-6-2. Lens Type

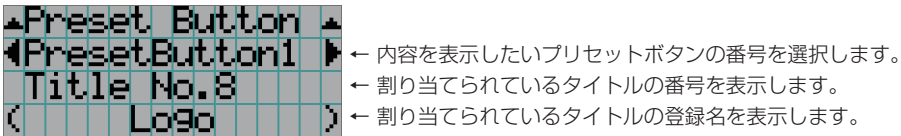
現在のレンズタイプの設定を表示します。



Without Sensor	レンズメモリ非対応のレンズユニットを使用する。
With Sensor	レンズメモリ対応のレンズユニットを使用する。

4-6-3. Preset Button

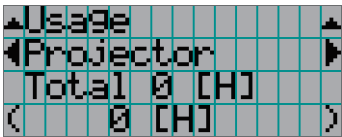
本体操作部のプリセットボタン（<1>～<8> ボタン）に割り当てられているタイトルを表示します。



参考 “Preset Button9”～“Preset Button16”に割り当てられているタイトルを選択する場合、<UP> ボタンを押しながらプリセットボタンを押してください。
たとえば、“Preset Button9”に割り当てられているタイトルを選択するには、<UP> ボタンを押しながら<1> ボタンを押します。

4-6-4. Usage

プロジェクター本体、光源、エアフィルター、ファンの使用時間や光源交換時期に関する情報など、プロジェクターの使用状況に関する情報を表示します。



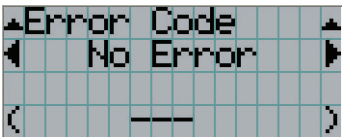
← 表示したい項目を選択します。

← 選択した項目に関する情報を表示します。

Projector	プロジェクター本体の使用時間を表示します。 上段にスタンバイ状態を含めた使用時間、下段にスタンバイ状態を含めない使用時間を表示します。
Light	光源の使用時間を表示します。
Phosphor	フォスファーの使用時間および交換時期までの目安を表示します。
Diffuser	ディフューザーの使用時間および交換時期までの目安を表示します。
Filter Cleaning	エアフィルターの使用時間を表示します。
Fan Usage	ファンの使用時間を表示します。

4-6-5. Error Code

エラーが発生したときに、エラーコードを表示します。



← 現在発生中のエラーコードが表示されます。

← 現在発生中のエラー名を表示します。

複数エラーが発生している場合は、<LEFT/RIGHT> ボタンを押して表示します。

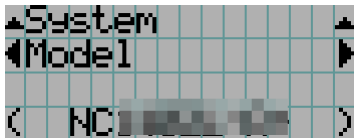
4. 調整メニュー

4-6-6. Version

プロジェクター本体やオプションボード、IMB のバージョン情報などを表示します。

System

プロジェクター本体の各種バージョン情報を表示します。



← 表示したい項目を選択します。

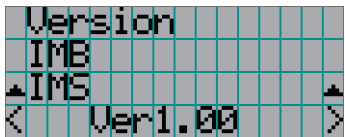
← バージョン情報を表示します。

表示項目は以下の通りです。

- Model
- Serial No.
- Release Package
- Kernel
- U-Boot
- System Files
- Cinema Firmware
- Cinema Data
- ICP Firmware
- ICP ConfigFile
- FMT FPGA
- Secure Processor
- Slave BIOS
- Slave Firmware
- Slave Data
- SSL FPGA
- LD Driver1
- LD Driver2
- LD Driver3

IMB

メディアブロック（IMB）のベンダー名とバージョン情報を表示します。プロジェクター本体がスタンバイ状態の場合、ベンダー名は空欄、バージョン情報は「---」で表示します。

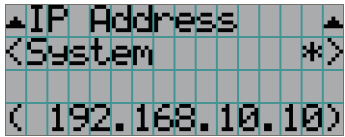


← ベンダー名を表示します。

← バージョン情報を表示します。

4-6-7. IP Address

プロジェクター本体に設定されている IP アドレスを表示します。

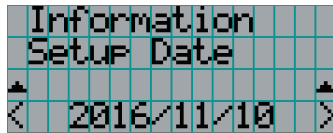


← IP アドレスを表示します。

System	プロジェクター本体（System）の IP アドレスを表示します。
--------	-----------------------------------

4-6-8. Setup Date

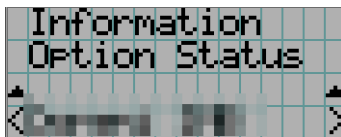
本機を設置した日付（保証期間の開始日）を表示します。



← 本機を設置した日付（保証期間の開始日）を表示します。

4-6-9. Option Status

本機のスロットに装着した装置の接続状態を表示します。プロジェクター本体がスタンバイ状態の場合や装置の状態が確認できない場合には、（ ）が付いた装置名が表示されます。



← スロットに装着した装置の接続状態を表示します。

- <ベンダー名> IMB: メディアブロック
- No Board: 装置が装着されていません

5.

本体のお手入れ

重要

・ プロジェクター内部の清掃は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5-1. キャビネットの清掃



警告

・ キャビネットの清掃をする前に電源プラグをコンセントから抜いてください。



警告

・ キャビネットなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因になります。

お手入れの前に必ずプロジェクター本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いていることを確認してください。

- ・ 毛羽立ちの少ない柔らかい乾いた布でふいてください。
汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書に従ってください。
- ・ シンナーやベンジンなどの溶剤でふかないでください。変質したり、塗料がはげたりすることがあります。
- ・ 通風孔のほこりを取り除く場合は、掃除機のブラシ付きのアダプタを使用して吸い取ってください。なお、アダプタを付
けずに直接当てたり、ノズルアダプタを使用したりすることは避けてください。
- ・ 通風孔にほこりがたまると、空気の通りが悪くなり内部の温度が上昇し、故障の原因となりますので、こまめに清掃をし
てください。設置環境にもよりますが 100 時間を目安に清掃をしてください。
- ・ キャビネットを爪や硬いもので強くひっかいたり、当てたりしないでください。傷の原因となります。
- ・ 本体内部の清掃については、お買い上げの販売店にご相談ください。

注意

キャビネットやレンズおよびスクリーンに殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴム
やビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。変質したり、塗料がはげたりするなどの原
因となります。

5-2. レンズの清掃

カメラのレンズと同じ方法で（市販のカメラ用ブローワーやメガネ用クリーニングペーパーを使って）クリーニングしてください。その際レンズを傷つけないようにご注意ください。

⚠ 警告

- レンズの清掃をする前に電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プロジェクターのレンズをのぞかないでください。動作中は強い光が投写されていますので、目を傷める原因となります。
- レンズなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因となります。

5-3. エアフィルターの清掃

ほこりの侵入を防ぐため、本機の吸気口にはエアフィルターが取り付けられています。本機の性能を保持するために、エアフィルターは定期的に清掃してください。

本機のエアフィルターはメタルフィルターです。清掃することにより何度でもご使用いただけます。

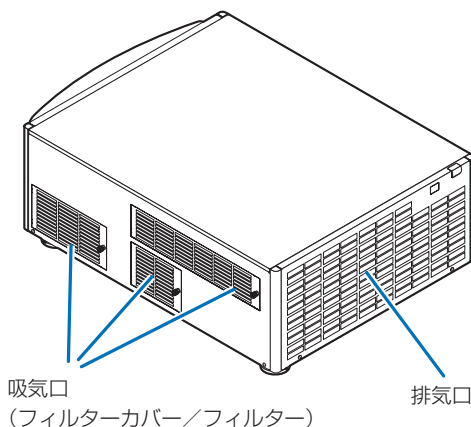
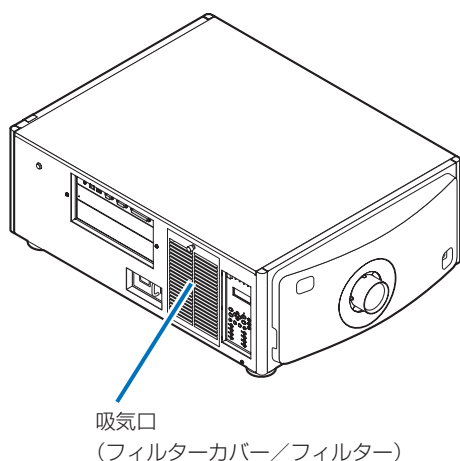
- エアフィルターの使用時間は、調整メニューの「Information」 - 「Usage」 (51 ページ) で確認できます。

⚠ 警告

- エアフィルターの清掃をする前に電源プラグをコンセントから抜いてください。
- エアフィルターにほこりがたまると、プロジェクター本体への吸気が不十分となり、内部の温度が上昇して、火災や故障の原因となります。
- フィルターなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- エアフィルターの清掃は、電源を切り冷却ファンの回転が完全に止まってからプロジェクター電源スイッチを切り、AC 電源を遮断し、本体が十分に冷えたことを確かめてから行ってください。動作中にフィルターユニットを外すとやけどや内部に触れて感電のおそれがあります。



エアフィルターは 4 箇所にあります。

5. 本体のお手入れ



- ・エアフィルターは水洗いしないでください。ほこりが目詰まりして吸気性能が低下します。
- ・エアフィルターを折り曲げないでください。使用できなくなります。
- ・フィルターの清掃は4箇所同時に行ってください。1箇所および2箇所のみ清掃すると、調整メニューでのフィルター使用時間がわからなくなります。

5-3-1. エアフィルターを清掃する

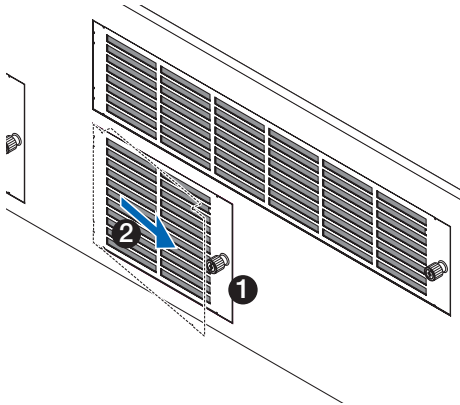
準備：プラスドライバーを用意してください。

注意

- ・図で示すネジ以外のネジには触らない、締めない、緩めない、取り外さないでください。

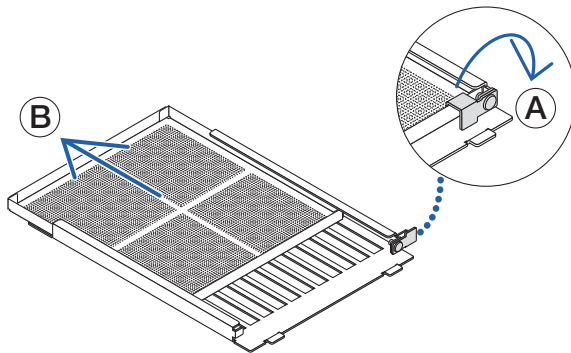
1 フィルターカバーを取り外す。

- ① ツマミを空転するまで左へ回す。
- ② フィルターカバーを開け、取り外す。
 - ・ ツマミは外れません。
 - ・ ツマミが回らないときは、プラスドライバーを使ってください。



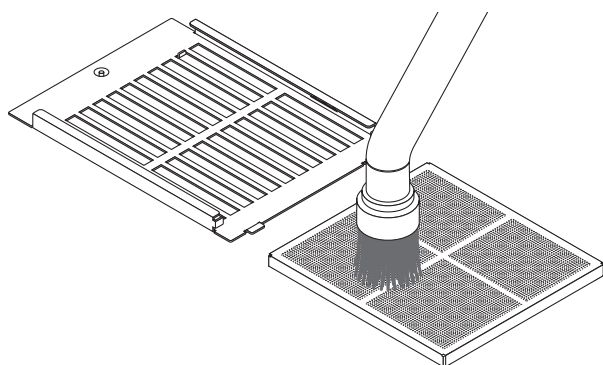
2 フィルターカバーのロックレバーを外し、フィルターを取り外す。

フィルターが引っ掛かる場合は、フィルターカバーを軽く下方方向に押し付けると外すことができます。



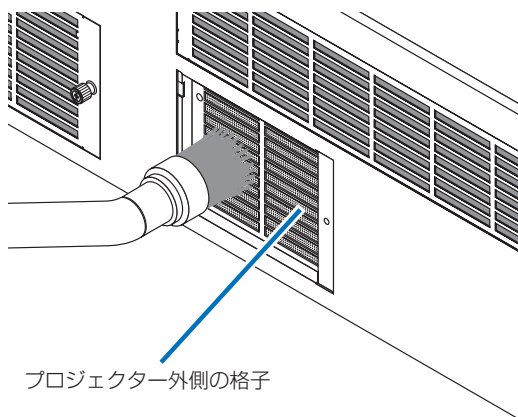
3 掃除機を使用して、ほこりを吸い取る。

フィルターの両面と、フィルターカバーのほこりを丁寧に吸引してください。



プロジェクター本体の格子部も同様にほこりを取り除いてください。

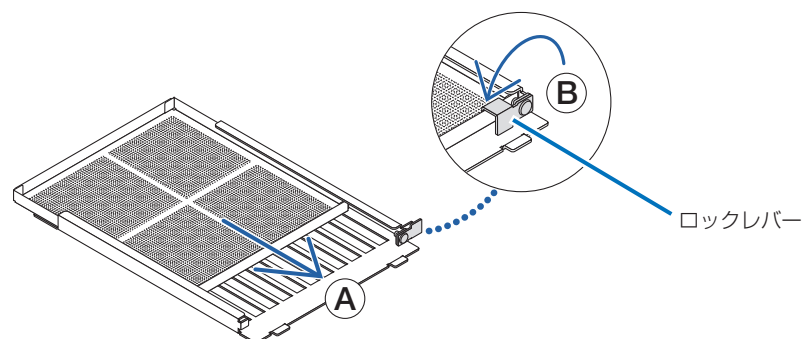
格子のない吸気口もあります。また、見えない場所にたまったほこりも必ず掃除機で吸引取ってください。



- ・フィルターを掃除する際は、柔らかいブラシ付きのアダプタを掃除機に取り付けて使用してください。これはフィルターが破損することを避けるためです。
- ・フィルターは水で洗わないでください。フィルターの破損や目詰まりの原因になります。

4 フィルターをフィルターカバーに取り付ける。

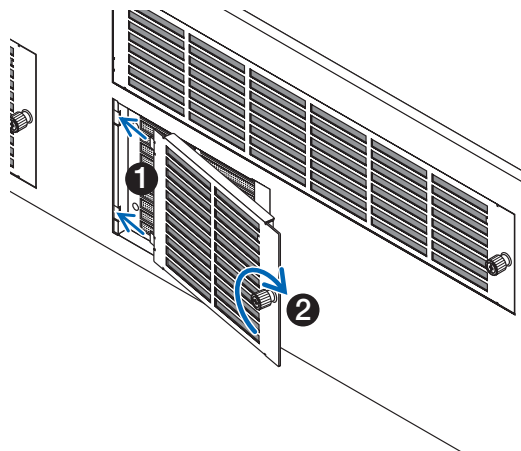
フィルターをゆっくりとスライドさせ、フィルターカバーのロックレバーを閉じる。



5. 本体のお手入れ

5 フィルターをプロジェクター本体に取り付ける。

- ① フィルターカバーのタブをプロジェクター本体の切り欠きに確実にはめ込む。
- ② ツマミを右に回して固定する。



6 他の吸気口のエアフィルターも同様に清掃する。



- 電源を入れる前にすべてのフィルターカバーが取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合プロジェクター内部にほこりが入り、故障の原因となります。
- フィルターを清掃した後、「FilterCleaning Time」をリセットしてください（このページ）。

5-3-2. エアフィルター使用時間をリセットする

1 本機の電源を入れる。

2 調整メニューの「Configuration」→「Reset」で、液晶画面に表示されたメッセージを消す。

調整メニューの「Configuration」→「Reset」→「Filter Cleaning」を実行してください。液晶画面に表示されたメッセージ「FilterCleaning Time」が消えます。

これで、エアフィルター使用時間のリセットは完了です。

6.

付 録

6-1. 故障かな？と思ったら

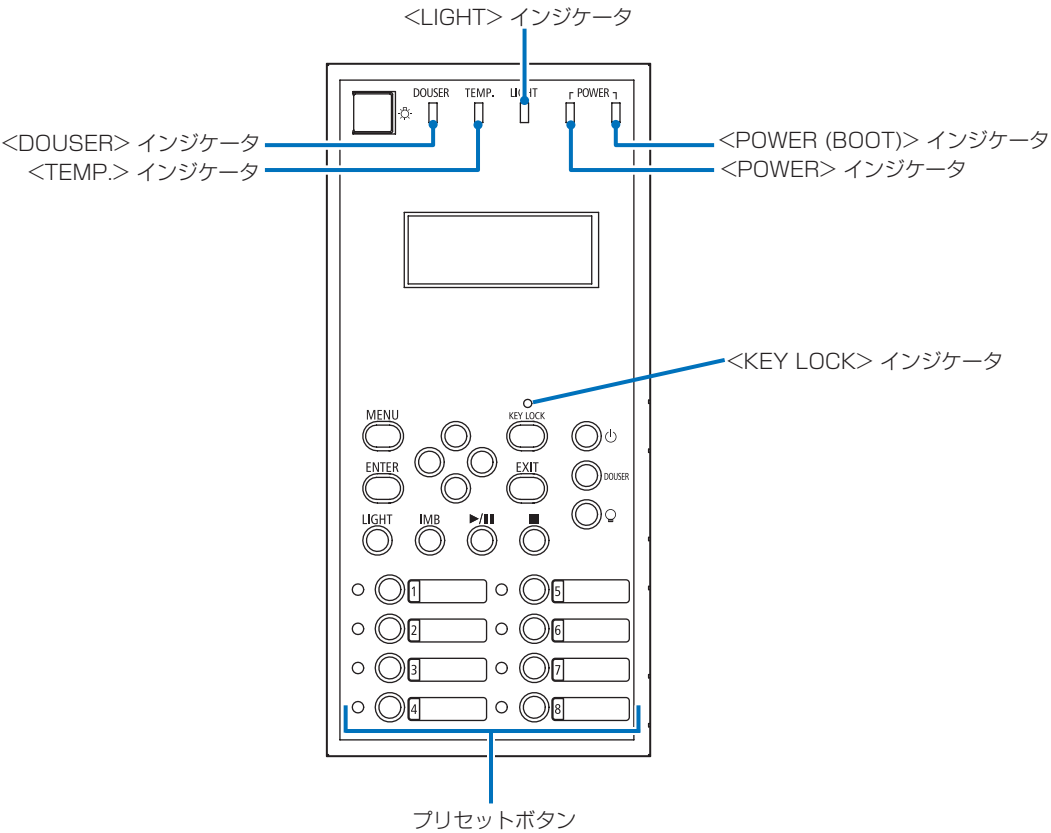
修理を依頼される前に、もう一度設定や操作に間違いがないかご確認ください。それでもなお異常なときはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

6-1-1. 現象と確認事項

このようなとき	確認してください
電源が入らない	AC 電源が供給されていますか。
	主電源スイッチは ON になっていますか。
	Panel Key Lock 中ではありませんか。Panel Key Lock 中は、本体の操作ボタンはロックされていて利きません。
	内部温度が高くなっていませんか。内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待ってから電源を入れてください。
映像が出ない	接続している入力を選んでいますか。
	入力端子のケーブルが正しく接続されていますか。
	ダウザーが閉じていませんか。
	各設定が正しく調整・設定されていますか。
映像が歪む	正しく設置されていますか。
映像がぼやける	レンズのフォーカスは合っていますか。
	投写画面とプロジェクターが正しい角度で設置されていますか。
	投写距離がフォーカスの範囲を超えていませんか。
	レンズなどが結露していませんか。気温が低い所に保管しておいて温かい所で電源を入れるとレンズや内部の光学部が結露することがあります。このような場合は結露がなくなるまで数分お待ちください。
映像が乱れる	本機に接続している信号ケーブルが断線していませんか。
SYSTEM ステータスインジケータが赤色で点滅する	プロジェクターが故障している可能性があります。お買い上げの販売店にお問い合わせください。
エラーコードが表示された	お買い上げの販売店にお問い合わせください。

6-2. インジケータ表示一覧

本体操作部のボタンや、本体後部にあるインジケータが点灯、点滅しているときは、以下の説明を確認してください。また、本機にはブザーによる警報機能もあります。



6-2-1. プリセットボタン

インジケータ表示		本機の状態	対 処
消灯		ボタンにタイトルが割り当てられていません。	—
点灯	緑色	ボタンにタイトルが割り当てられています。	—
	白色	タイトルが選択されていません。	—

6-2-2. <KEY LOCK> インジケータ

インジケータ表示		本機の状態	対 処
消灯		KEY LOCK 解除状態	—
点灯	オレンジ色	KEY LOCK 有効状態	—

6-2-3. <DOUSER> インジケータ

インジケータ表示		本機の状態	対 処
点灯	緑色	ダウザー ON	—
消灯		ダウザー OFF	—

6-2-4. <TEMP.> インジケータ

インジケータ表示		本機の状態	対 処
点灯	赤色	本体温度が動作温度限度に近付いています。	液晶画面にエラーメッセージが表示されます。エラー内容を確認してください。
点滅	赤色	本体温度が動作温度を超えています。	液晶画面にエラーメッセージが表示されます。エラー内容を確認してください。

6-2-5. <LIGHT> インジケータ

インジケータ表示		本機の状態	対 処
消灯		光源 OFF	—
点滅	緑色	光源の ON / OFF 操作不可	—
点灯	緑色	光源 ON	—

6-2-6. <POWER> インジケータ

インジケータ表示		本機の状態	対 処
消灯		プロジェクター電源 OFF 状態	—
点滅	オレンジ色	本体ソフトウェア起動中	しばらくお待ちください。
	緑色 (注 1)	電源 ON 準備中 / 冷却ファン回転中 (電源を OFF にしてからスタンバイ状態になるまでの状態)	しばらくお待ちください。
	緑色 (注 2)	スリープタイマー有効時	—
点灯	緑色	電源 ON 状態	—
	オレンジ色	スタンバイ状態	—

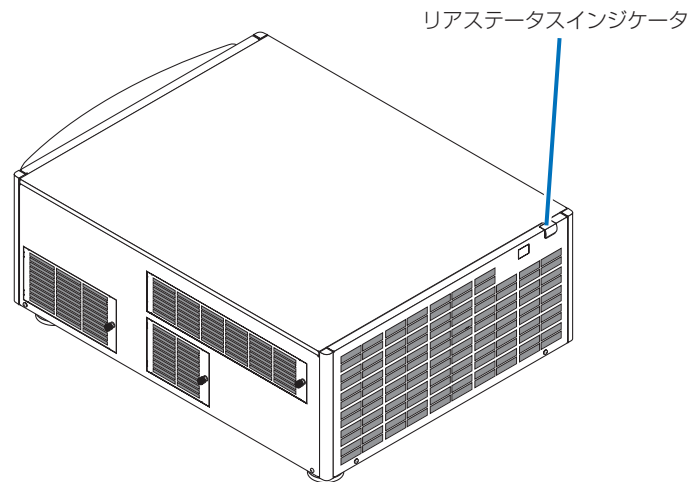
(注 1) 0.5 秒点灯 → 0.5 秒消灯を繰り返します。

(注 2) 2.5 秒点灯 → 0.5 秒消灯を繰り返します。

6-2-7. <POWER (BOOT)> インジケータ

インジケータ表示		本機の状態	対 処
点灯	青色	本体ソフトウェア起動中	しばらくお待ちください。
点滅	青色		しばらくお待ちください。
消灯		プロジェクター電源 ON / スタンバイ状態	—

6-2-8. インジケータ



SYSTEM ステータスインジケータ

インジケータ表示		本機の状態	対 処
消灯		主電源 OFF	—
点滅	緑色	電源 ON 準備中、ダウザー ON、光源 OFF	しばらくお待ちください。
	オレンジ色	本体冷却中	しばらくお待ちください。
	赤色（ブザーあり）	安全性に問題がある異常あり	液晶画面にエラーメッセージが表示されます。エラー内容を確認してください。
	赤色（ブザーなし）	条件付きで映写可能な異常あり	液晶画面にエラーメッセージが表示されます。エラー内容を確認してください。
点灯	緑色	電源 ON 状態	—
	オレンジ色	スタンバイ状態	—
	赤色	映写に支障のないレベルの異常あり	液晶画面にエラーメッセージが表示されます。エラー内容を確認してください。

6-3. HTTP を使用したブラウザによる操作

6-3-1. 概 要

HTTP サーバ機能を使用することにより、Web ブラウザからプロジェクターを操作することができます。

HTTP サーバ機能は「JavaScript」および「Cookie」を利用していますので、これらの機能が利用可能な設定をブラウザに対して行ってください。設定方法はバージョンにより異なりますので、それぞれのソフトにあるヘルプなどの説明を参照してください。



ご使用のネットワーク環境によっては、表示速度やボタンの反応が遅くなったり、操作を受け付けなかったりすることがあります。

その場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

また続けてボタン操作を行うとプロジェクターが応答しなくなることがあります。その場合はしばらく待ってから再度操作を行ってください。

HTTP サーバ機能へのアクセスは、プロジェクターとネットワークで接続されたコンピューターで Web ブラウザを起動し、アドレスまたは URL の入力欄へ

`http://〈本機の IP アドレス〉/index.html`

と指定することで行えます。

6-3-2. 使用前の準備

ブラウザによる操作を行う前にあらかじめプロジェクターに対して、ネットワークとの接続と設定を行ってください。

プロキシサーバの種類や設定方法によっては、プロキシサーバを経由したブラウザ操作ができないことがあります。プロキシサーバの種類にもよりますがキャッシュの効果により実際に設定されているものが表示されない、ブラウザから設定した内容が反映しないなどの現象が発生することがあります。極力プロキシサーバは使用されないことを推奨します。

6-3-3. ブラウザによる操作のアドレスの扱い

ブラウザによる操作に際しアドレスまたは URL 欄に入力する実際のアドレスについてネットワーク管理者によってドメインネームサーバへプロジェクターの IP アドレスに対するホスト名が登録されている場合、もしくは使用しているコンピュータの「HOSTS」ファイルにプロジェクターの IP アドレスに対するホスト名が設定されている場合には、ホスト名がそのまま利用できます。

(例 1) プロジェクターのホスト名が「pj.sharp.co.jp」と設定されている場合

HTTP サーバ機能へのアクセスはアドレスまたは URL の入力欄へ

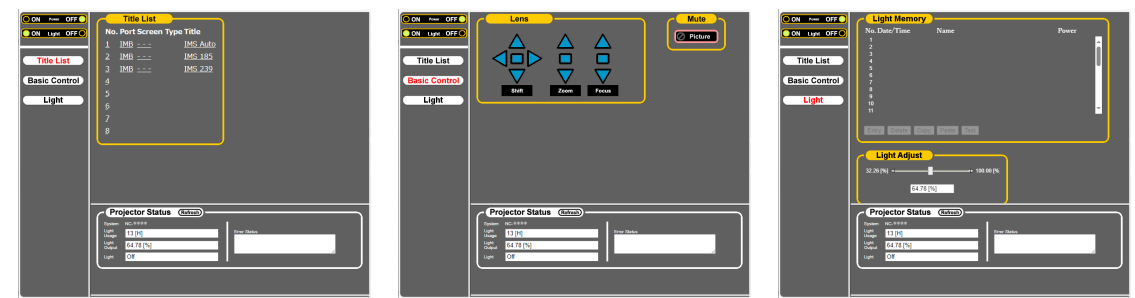
`http://pj.sharp.co.jp/index.html` と指定します。

(例 2) プロジェクターの IP アドレスが「192.168.10.10」の場合

HTTP サーバ機能へのアクセスはアドレスまたは URL の入力欄へ

`http://192.168.10.10/index.html` と指定します。

6-3-4. HTTP サーバの構造



Power		プロジェクターの電源をオン／オフします。 ・ On：電源をオンにします。 ・ Off：電源をオフにします。
Light		光源を点灯／消灯します。 ・ On：光源を点灯します。 ・ Off：光源を消灯します。
Title List		プロジェクターにセットされているタイトル（入力ポート、スクリーンタイプ、タイトル）を表示します。 クリックするとタイトルが切り替わります。
Basic Control		基本的な制御項目が表示されます。
Lens		レンズ操作を制御します。
	Shift	▲：投写位置を上に移動します。 ▼：投写位置を下に移動します。 ◀：投写位置を左に移動します。 ▶：投写位置を右に移動します。 ■：投写位置の移動を停止します。 移動中に、同じボタンをもう一度クリックすると移動が停止します。
	Zoom	▲：ズームインします。 ▼：ズームアウトします。 ■：ズームイン／ズームアウトを停止します。 ズームイン／ズームアウト中に、同じボタンをもう一度クリックするとズームイン／ズームアウトが停止します。
Focus		▲：フォーカスを遠距離方向に移動します。 ▼：フォーカスを近距離方向に移動します。 ■：フォーカスの移動を停止します。 フォーカスの移動中に、同じボタンをもう一度クリックするとフォーカスの移動が停止します。
Mute	Picture	クリックするとダウザーが閉じて映像が一時的に消えます。もう一度クリックすると再び映像が投写されます。
Projector Status		プロジェクターの状態を表示します。 ・ Light Usage：光源の使用時間を表示します。 ・ Light Power：光源の出力（%）を表示します。 ・ Light Status：光源の状態（On：点灯／Off：消灯）を表示します。 ・ Error Status：プロジェクター内部のエラー発生状況を表示します。 ・ Refresh：状態表示を更新します。
Light Memory	Entry	現在の光源出力値をメモリに保存します。
	Delete	リスト上で選択したメモリを Light Memory から削除します。
	Copy	リスト上で選択したメモリをコピーします。
	Paste	リスト上で選択したメモリに、コピーしたメモリを保存／上書きします。
	Test	リスト上で選択したメモリの調整値をテストします。

6-4. ログファイルの書き出し (Save Information)

本体に保存されたログファイルを本体の USB ポートに接続している USB メモリに書き出しできます。ログファイルの書き出しは次の手順で行います。

1 本体の USB ポートに USB メモリを接続します。

USB メモリが認識され、使用できる状態になるまでお待ちください (5 秒以上)。詳しくは、USB メモリの取扱説明書を参照してください。

2 <UP> ボタンと <ENTER> ボタンを同時に押します。

“Save Info.” 画面が表示されます。

```

** Save Info. **
Date Filter
◀ Today ▶
*****

```

参考

操作中に <EXIT> ボタンを押すと、操作を中止して通常時の画面に戻ります。

3 <LEFT/RIGHT> ボタンを押して、ログファイルを書き出す期間を選択します。

選択できる項目は次のとおりです。

Today	本日分のログファイルを書き出します。
7days	本日から過去 1 週間分のログファイルを書き出します。
30days	本日から過去 30 日分のログファイルを書き出します。
2years	本日から過去 2 年分のログファイルを書き出します。
Manual	指定した期間のログファイルを書き出します。

4 <ENTER> ボタンを押します。

“Today”、“7days”、“30days”、“2years” を選択した場合、ログファイルを書き出す期間が表示されます。

```

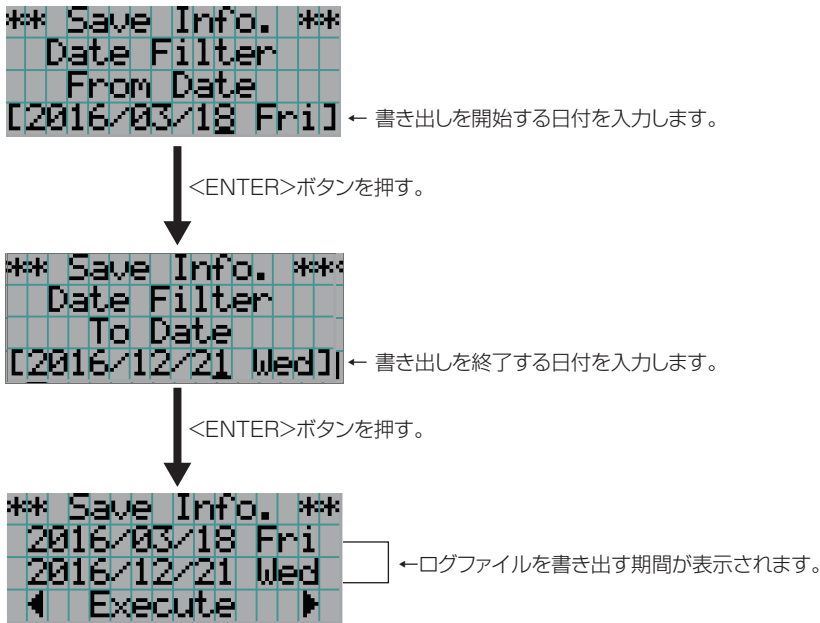
** Save Info. **
2016/03/11 Fri
2016/03/18 Fri
◀ Execute ▶

```

←ログファイルを書き出す期間が表示されます。

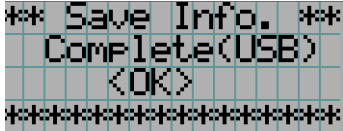
6. 付 録

“Manual” を選択した場合、ログファイルを書き出す期間を設定します。数字の入力方法については、「4-1-3. 英数字の入力方法」（46 ページ）を参照してください。＜ENTER＞ ボタンを押すと、次のように画面が進みます。



- 5** ログファイルを書き出す期間を確認したら、＜LEFT/RIGHT＞ ボタンを押して “Execute” を選択して、＜ENTER＞ ボタンを押します。

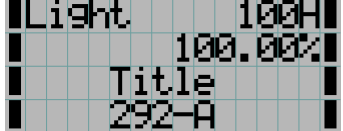
設定した期間のログファイルを USB 機器に書き出します。書き出しが完了すると、次の画面が表示されます。



参考 “Cancel” を選択して ＜ENTER＞ ボタンを押すと、ログファイルの書き出しを中止して、通常時の画面に戻ります。

- 6** ＜ENTER＞ ボタンを押します。

通常時の画面に戻ります。



- 7** USB メモリを本体の USB ポートから取り外します。

6-4-1. ログファイルのファイル名

書き出したログファイルは、次のファイル名で保存されます。

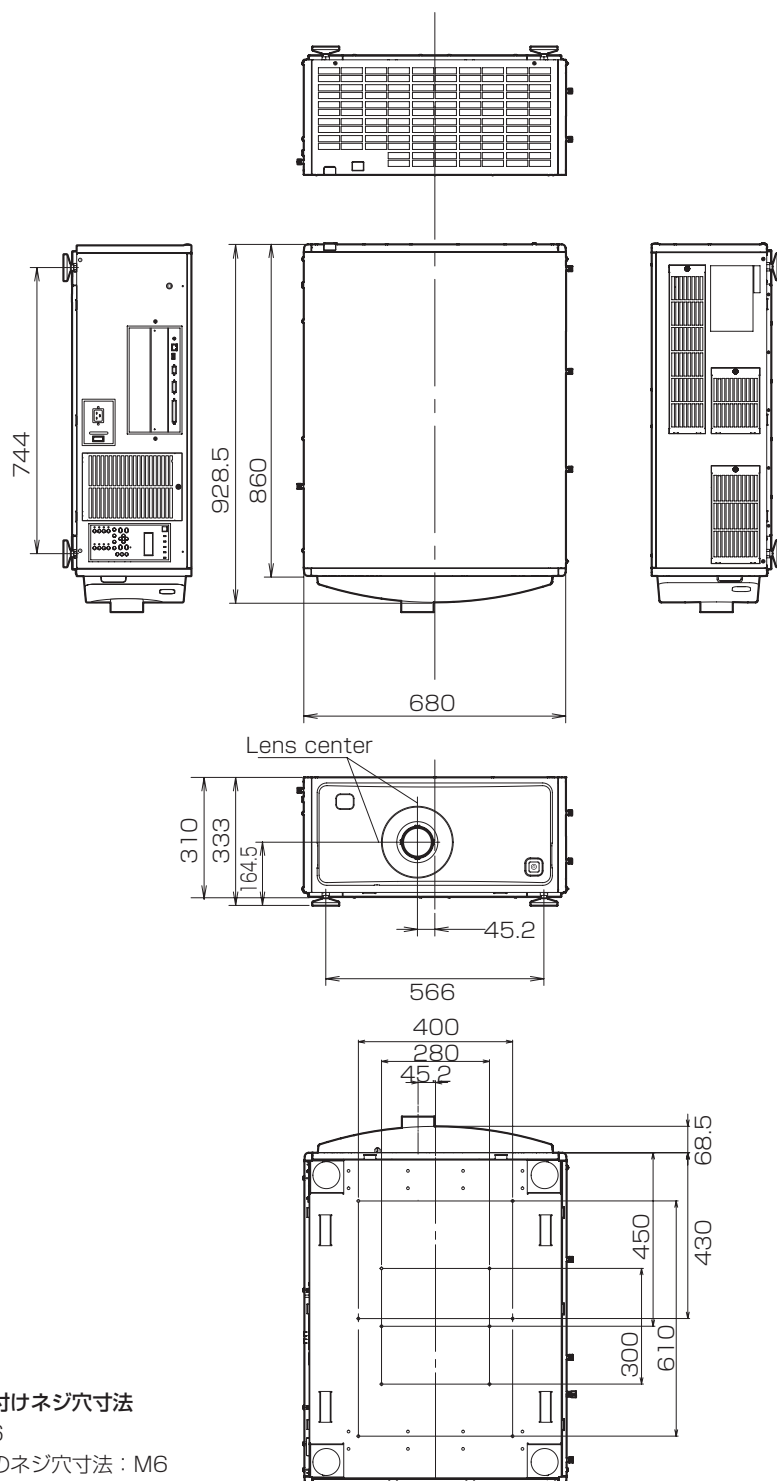
— (モデル名)_(シリアル番号)_YYMMDDHHmm.txt

(モデル名)	プロジェクターの機種を示します。
(シリアル番号)	プロジェクターのシリアル番号を示します。
YYMMDDHHmm	書き出した日付を示します。 YY: 年 (2桁) MM: 月 (2桁) DD: 日 (2桁) HH: 時 (2桁) mm: 分 (2桁)

たとえば、2026/11/10 14:05 に NC-624 のログファイルを書き出した場合は、「NC-624_abcd1234_2611101405.txt」のファイル名で保存されます。

6-5. 外観図

6-5-1. プロジェクター本体



天吊り金具取り付けネジ穴寸法
 ネジタイプ：M6
 プロジェクターのネジ穴寸法：M6
 最大深さ：10mm

単位：mm

6-6. 仕様

機種名	NC-624
投写方式	3 チップ DLP Cinema® 方式 0.69 インチ DC2K チップ
パネル解像度	2048 x 1080
光源	Laser diode
スクリーン幅	最大 11m @14ft-L/Screen Gain 1.8 (設置条件による)
コントラスト比	1650:1 with DCI specified color representation
レンズ調整機能	電動レンズシフト (縦 / 横)、電動ズーム、電動フォーカス、ダウザー
信号入力端子 (スロット)	工場出荷時 空き (別売オプション搭載用) (注 1)
外部コントロール	・ RS-232C (D-sub 9pin) x 1 ・ GPIO ポート (D-sub 37pin) x 1 ・ 3D CTL (D-sub 15pin) x 1 ・ USB (Type A) x 1 ・ サービス専用端子 (ステレオミニジャック) x 1 ・ Ethernet ポート (RJ-45 10/100Base-T) x 1 ・ インターロック端子 x 1
電源	AC200-240V 50/60 Hz 単相
入力電流	7.4A (注 3)
消費電力	890W (200V) (注 2)
冷却方式	空冷システム
騒音レベル	39dB (注 2)
設置方式	デスク / フロント、デスク / リア、天吊り / フロント、天吊り / リア
質量	59kg (レンズを除く)
外形寸法	680mm (幅) x 860mm (奥行) x 310mm (高さ) (突起部と脚部含まず。)
使用環境	動作温度：10 ～ 35℃ 動作湿度：10 ～ 85% (ただし結露しないこと) 保存温度：-10 ～ 50℃ 保存湿度：10 ～ 85% (ただし結露しないこと) 動作高度：0 ～ 3,000m

(注 1) 工場出荷時には、映像信号入力端子が実装されていません。別売のオプションボードを取り付けることにより、入力端子を追加できます。

(注 2) 数値は代表値です。

(注 3) 高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品。

※この仕様・意匠はお断りなく変更することがあります。

6-7. 電源コード

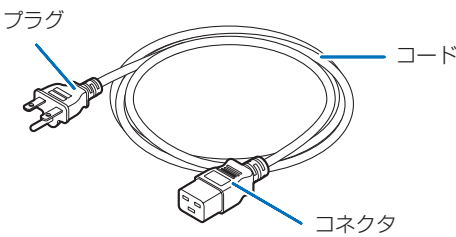
注意 電源コードの選定および手配については、販売店にご依頼ください。

電源コードの電氣的仕様

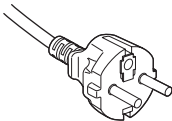
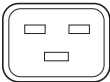
AC 電源コードを接続するため、本機は IEC 60320 C20 インレットを装備しています。本機に装備されているコネクタと AC 電源設備を接続する AC 電源コードは、次に示す電流容量を確保してください。

電源電圧	プロジェクターの流入電流	電源コードの電流容量
AC 200V-240V	7.4A	250V 16A 以上

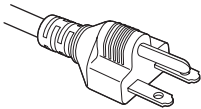
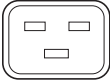
電源コードの形状



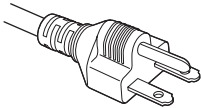
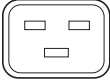
次の表に示すとおり、設置国の規格に適合するプラグ、コード、コネクタを使用してください。
ドイツ

プラグ	コード	コネクタ
CEE 7 	H05VV-F 3G1.5 	IEC 320 C19 

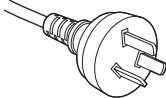
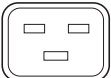
米国

プラグ	コード	コネクタ
NEMA 6-15P 	SJT 3 x AWG14 	IEC 320 C19 

日本

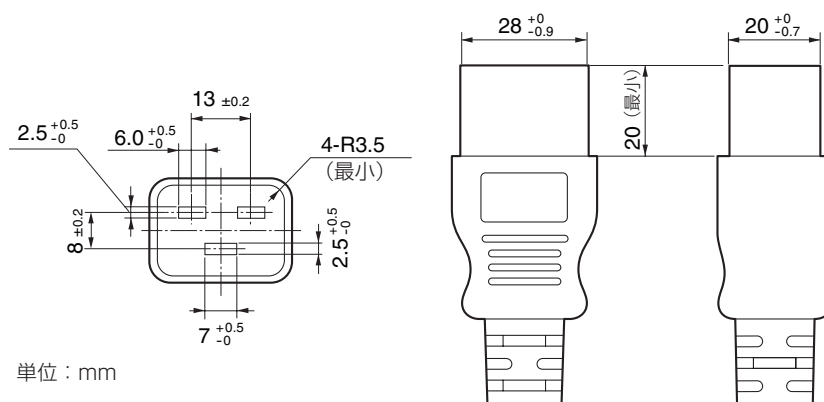
プラグ	コード	コネクタ
JIS C 8303 	VCTF 3 x 2.0 mm 	IEC 320 C19 

中国

プラグ	コード	コネクタ
GB2099 	RVV 300/500 	GB17465.1 

コネクタ

本機に接続する部分のコネクタの寸法に合った物をお使いください。



6-8. 端子のピン配列と機能

6-8-1. PC コントロール端子（RS-232）（D-sub9 ピン）

コンピュータでプロジェクター本体をコントロールするためのRS-232C インターフェイスです。プロジェクターは、データ通信装置（DCE:Data Communication Equipment）として動作しますので、コンピュータと接続する場合はストレートケーブルを使用します。



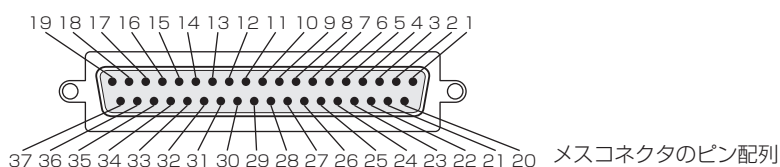
ピン 番号	RS-232C 信号名	RS-232C としての機能	プロジェクターの端子動作
1	CD	キャリア検出	未使用（N.C.）
2	RXD	受信データ	外部へデータ送信
3	TXD	送信データ	外部からデータ受信
4	DTR	データ端末レディ（注）	6 ピンと接続
5	GND	信号 GND	信号 GND
6	DSR	データセットレディ（注）	4 ピンと接続
7	RTS	送信要求	SYSTEM：Hi-Z（未使用） CINEMA：Hi-Z（使用）
8	CTS	送信可	SYSTEM：-6.5V 固定（未使用） CINEMA：± 10.5V（使用：通信状態による）
9	RI	リングインジケータ	未使用（N.C.）

（注） 通信を行う際 DTR、DSR 信号は使用しません。

6-8-2. 外部コントロール端子（GP I/O）（D-sub37 ピン）

外部コントロール端子（GPIO : General Purpose I/O Ports）を使って外部機器等でプロジェクターをコントロールしたり、プロジェクターから外部機器をコントロールしたりすることができます。各ピンはフォトカブラによってプロジェクター内部回路とは電氣的に分離しており、入力 8 ポートと出力 8 ポートを備えています。

使用方法、操作方法の詳細については販売店にお問い合わせください。

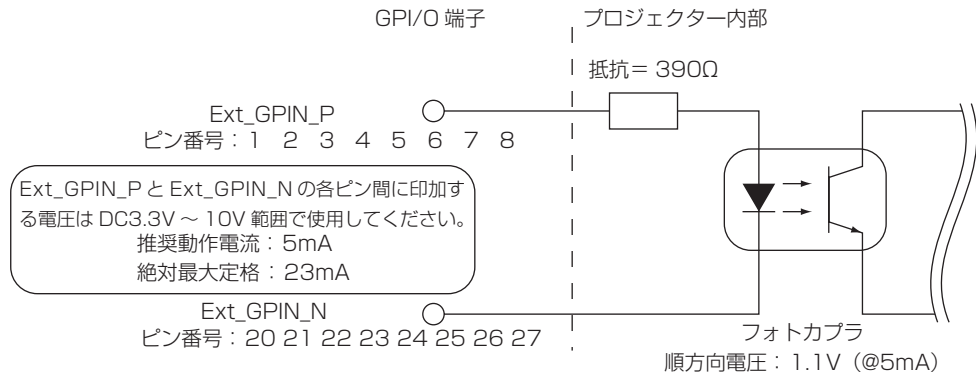


ピン番号	信号名	入出力	ピン番号	信号名	入出力
1	GPIN1 + (3D L/R Input Reference +)	IN	20	GPIN1 – (3D L/R Input Reference –)	IN
2	GPIN2 + (3D L/R Display Reference +)	IN	21	GPIN2 – (3D L/R Display Reference –)	IN
3	GPIN3 + (システム予約)	IN	22	GPIN3 – (システム予約)	IN
4	GPIN4 + (システム予約)	IN	23	GPIN4 – (システム予約)	IN
5	EXT_GPIN1 + (Control and Title Selection +)	IN	24	EXT_GPIN1 – (Control and Title Selection –)	IN
6	EXT_GPIN2 + (Control and Title Selection +)	IN	25	EXT_GPIN2 – (Control and Title Selection –)	IN
7	EXT_GPIN3 + (Control and Title Selection +)	IN	26	EXT_GPIN3 – (Control and Title Selection –)	IN
8	EXT_GPIN4 + (Control and Title Selection +)	IN	27	EXT_GPIN4 – (Control and Title Selection –)	IN
9	GPOUT1 + (External 3D L/R Output Reference +)	OUT	28	GPOUT1 – (External 3D L/R Output Reference –)	OUT
10	GPOUT2 + (システム予約)	OUT	29	GPOUT2 – (システム予約)	OUT
11	GPOUT3 + (システム予約)	OUT	30	GPOUT3 – (システム予約)	OUT
12	GPOUT4 + (Internal 3D L/R Output Reference +)	OUT	31	GPOUT4 – (Internal 3D L/R Output Reference –)	OUT
13	EXT_GPOUT1 + (Projector Ready/Busy +)	OUT	32	EXT_GPOUT1 – (Projector Ready/Busy –)	OUT
14	EXT_GPOUT2 + (Projector Error Status +)	OUT	33	EXT_GPOUT2 – (Projector Error Status –)	OUT
15	EXT_GPOUT3 + (IMB Play/End Status +)	OUT	34	EXT_GPOUT3 – (IMB Play/End Status –)	OUT
16	EXT_GPOUT4 + (Projector Heartbeat +)	OUT	35	EXT_GPOUT4 – (Projector Heartbeat –)	OUT
17	NC (未接続)	–	36	NC (未接続)	–
18	GND	PWR	37	GND	PWR
19	GND	PWR	–	–	–

EXT_GPIN1 ～ EXT_GPIN4 : 入力信号 (High/Low) の組み合わせにより、外部からプロジェクターを制御できます。(プロジェクター電源 / 光源の点灯 (または消灯) / 映像ミュート / タイトル選択)

EXT_GPOUT1 ～ EXT_GPOUT4 : 表に記載されている機能は初期設定です。割り当てられた機能は変更できます。

入力端子



● GPIO コントロールを使用する

ON パルスを GPIO ポートに入力することにより、プロジェクターの制御ができます。
ON パルスを有効にするには、500ms 以上のパルス幅が必要です。また、ON パルスを入力するまえに 500ms 以上の OFF を保持する必要があります (75 ページ)。
GPIO ポートを使ったプロジェクター制御の機能一覧を次に示します。

ピン番号	フォトカブラ ON / OFF				機能
1-20	ON / OFF				3D L/R タイミング信号入力 ON / OFF
2-21	ON / OFF				3D L/R 表示タイミング信号入力 ON / OFF
3-22	—				システム予約 (内部で使用)
4-23	—				システム予約 (内部で使用)
5-24	8-27	7-26	6-25	5-24	入力端子の組み合わせによって、以下の機能になります。
6-25	OFF	OFF	OFF	ON	電源 ON
7-26	OFF	OFF	ON	OFF	電源 OFF
8-27	OFF	OFF	ON	ON	光源 ON
	OFF	ON	OFF	OFF	光源 OFF
	OFF	ON	OFF	ON	映像ダウザー ON
	OFF	ON	ON	OFF	映像ダウザー OFF
	OFF	ON	ON	ON	システム予約 (内部で使用)
	ON	OFF	OFF	OFF	プリセットボタン 1 に登録しているタイトルを選択
	ON	OFF	OFF	ON	プリセットボタン 2 に登録しているタイトルを選択
	ON	OFF	ON	OFF	プリセットボタン 3 に登録しているタイトルを選択
	ON	OFF	ON	ON	プリセットボタン 4 に登録しているタイトルを選択
	ON	ON	OFF	OFF	プリセットボタン 5 に登録しているタイトルを選択
	ON	ON	OFF	ON	プリセットボタン 6 に登録しているタイトルを選択
	ON	ON	ON	OFF	プリセットボタン 7 に登録しているタイトルを選択
	ON	ON	ON	ON	プリセットボタン 8 に登録しているタイトルを選択

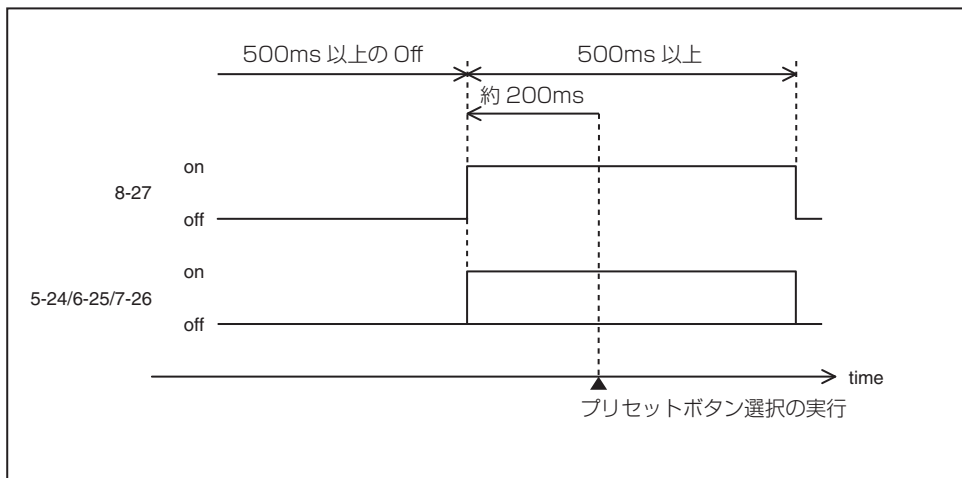
映像をミュート (映像ダウザー ON) にする場合 : 6-25 と 8-27 を OFF にした状態で、5-24 と 7-26 に ON を入力する。
プリセットボタン 2 を選択する場合 : 6-25 と 7-26 を OFF にした状態で、5-24 と 8-27 に ON を入力する。

注意

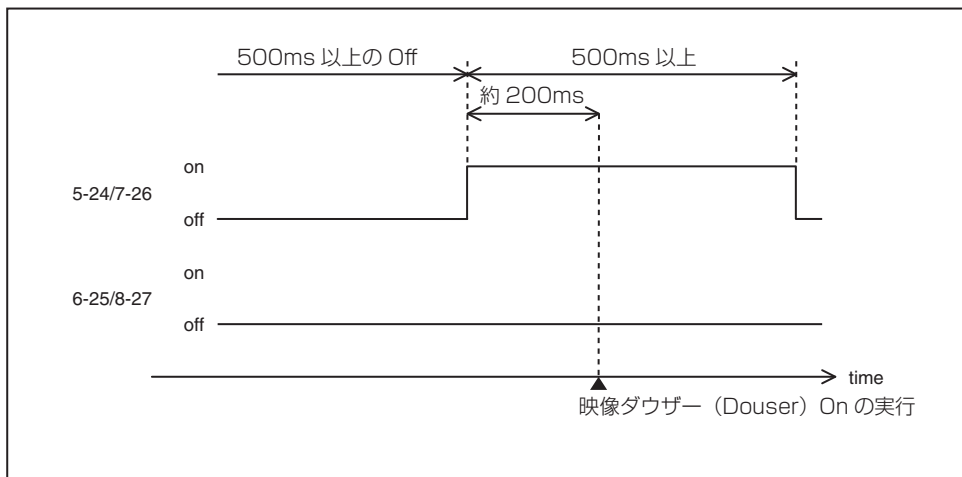
- ・ 光源のクーリング中やタイトル切り替え中などプロジェクターが別の処理を実行している場合、GPIO ポートから入力された操作コマンドはキャンセルされます。
- ・ 操作対象以外のピンは OFF に設定する必要があります。
- ・ 操作コマンドが実行されるタイミングは、ON パルスが連続で約 200 ms 入力されたタイミングになります。

● GPIO コントロールのタイミングチャート

プリセットボタン選択の例

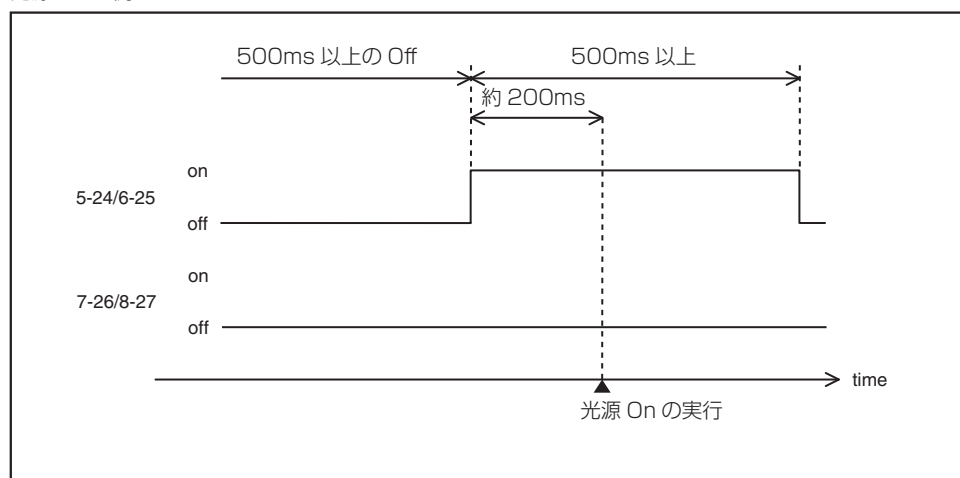


映像ダウザー（Douser）On の例

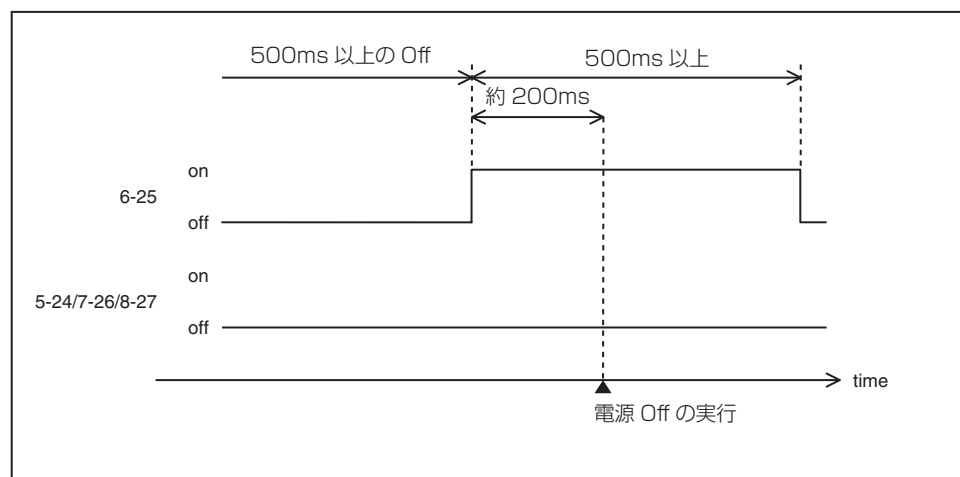


6. 付 録

光源 On の例



電源 Off の例



出力端子



● GPIO コントロールを使用する

プロジェクターのヘルスチェックやエラーチェックなどに使用します。また、出力された内容をトリガーとして、外部の装置を制御できます。

初期設定では、ピン番号 13-32/14-33/15-34/16-35 (EXT_GPOUT1 ~ EXT_GPOUT4) に以下の機能が割り当てられています。割り当てられた機能は変更できます。

ピン番号	フォトカブラ ON / OFF	機能
9-28	ON / OFF	外部 3D L/R タイミング信号出力 ON / OFF
10-29	—	システム予約 (内部で使用)
11-30	—	システム予約 (内部で使用)
12-31	ON / OFF	内部 3D L/R タイミング信号出力 ON / OFF
13-32	ON / OFF	GPIO コントロールの状態確認 ON: GPIO コントロール (入力) を使用できません。 OFF: GPIO コントロール (入力) を使用できます。
14-33	ON / OFF	エラーチェック ON: エラーあり OFF: エラーなし
15-34	ON / OFF	IMB の状態確認 ON: コンテンツ再生中 OFF: 停止 / 一時停止中
16-35	ON / OFF	ヘルスチェック (ハートビート) 正常に動作している場合、ON / OFF が交互に出力されます。

6-8-3. 3D 端子 (3D) (D-sub15 ピン)

プロジェクターに 3D 映像システムを接続するときに使用します。



ピン 番号	信号名	入出力	説明
1	+12V	PWR	3D 映像システムに電源 (+ 12V) を供給
2	GNDC	GND	グラウンド
3	GNDC	GND	グラウンド
4	RS232_RX	IN	3D 映像システムからの受信データ (1200 Baud、8 bits、No Parity)
5	RS232_TX	OUT	3D 映像システムへの送信データ (1200 Baud、8 bits、No Parity)
6	CONN_3D_MODE +	OUT	3D モード状態 (+) (プロジェクター内部で、フォトカブラの出力側 トランジスタのコレクタに接続)
7	CONN_SYNC +	OUT	3D L/R 切り替えタイミング信号 (+) (プロジェクター内部で、フォトカブラの出力側 トランジスタのコレクタに接続)
8	3D_INPUT_REFERENCE +	IN	3D L/R タイミング信号 (+) (プロジェクター内部で、フォトカブラの入力側 ダイオードのアノードに接続)
9	+12V	PWR	3D 映像システムに電源 (+ 12V) を供給
10	3D_INPUT_REFERENCE -	IN	3D L/R タイミング信号 (-) (プロジェクター内部で、フォトカブラの入力側 ダイオードのカソードに接続)
11	3D_DISPLAY_REFERENCE +	IN	3D L/R 表示タイミング信号 (+) (プロジェクター内部で、フォトカブラの入力側 ダイオードのアノードに接続)
12	3D_DISPLAY_REFERENCE -	IN	3D L/R 表示タイミング信号 (-) (プロジェクター内部で、フォトカブラの入力側 ダイオードのカソードに接続)
13	CONN_3D_MODE -	OUT	3D モード状態 (-) (プロジェクター内部で、フォトカブラの出力側 トランジスタのエミッタに接続)
14	CONN_SYNC -	OUT	3D L/R 切り替えタイミング信号 (-) (プロジェクター内部で、フォトカブラの出力側 トランジスタのエミッタに接続)
15	N/C	-	未接続

6-9. 関連商品一覧

商品名		レンズメモリ対応	形名
レンズ	Zoom lens 1.2 ～ 1.72	○	NC-12ZSA1 NP-9LS12ZM1
	Zoom lens 1.33 ～ 2.1	○	NC-13ZSA1 NP-9LS13ZM1
	Zoom lens 1.62 ～ 2.7	○	NC-16ZSA1 NP-9LS16ZM1
	Zoom lens 2.09 ～ 3.9	○	NC-20ZSA1 NP-9LS20ZM1

6-10. 保証と修理サービス（必ずお読みください）

■ 製品の保証について

- この製品には保証書がついています。保証書は、販売店にて所定事項を記入してお渡ししますので、内容をよくお読みのうえ大切に保存してください。
- 保証期間はご購入の日から2年間です。
本製品には有寿命部品（光学エンジン、光源ユニットなど）が含まれます。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温度、湿度など）の条件により異なります。
長時間連続使用など、ご使用状況によっては製品の保証期間内であっても有料での部品交換が必要になりますので、ご購入のの販売店にご確認ください。

■ 補修用性能部品について

当社は、本製品の補修用性能部品を製造打切後、5年間保有しています。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品のことです。

■ 修理を依頼されるときは

先に「故障かな?」と思ったら（→取扱説明書）をお読みのうえ、もう一度お調べください。それでも異常があるときは、使用をやめて、電源コードをコンセントから抜き、ご購入のの販売店にご連絡ください。ご自分での修理はしないでください。たいへん危険です。

ご連絡していただきたい内容

品名	DLP Cinema® プロジェクター
形名	NC-624 (取り付けている別売品があれば、その形名も連絡ください。)
ご購入の日	(年月日)
故障の状況	(できるだけ具体的に)
ご住所	
お名前	
電話番号	

保証期間中

保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

アフターサービスについてわからないことは、ご購入のの販売店にお問い合わせください。

